

# 学 位 論 文

日本語教育における類義語間の語種の使用に関する考察  
—日本人大学生と中国人日本語学習者の比較を中心にして—

指導教員 西山教行 教授

平成 29 年 1 月 13 日

京都大学大学院人間・環境学研究科  
修士課程 共生人間学 専攻

朱 美霖

## 論文内容の要旨

共生人間学 専攻     朱 美霖

本研究は日本語教育の視点から、日本人母語話者（日本人大学生）と中国人日本語学習者を対象とし、日本語における類義語間の語種（和語・漢語・外来語）について、使用場面による使い分けの使用傾向とその原因をそれぞれ考察するものである。

近年、グローバル化やインターネットの普及につれ、外来語の数は大幅に増加している。外来語の多用によって、和語や漢語との使い分けに日本語学習者は難しさを感じている。

本稿は 19 組の語彙を絞り、それらの類義語を分析する。アンケート調査を通じて、日本人母語話者は場面（友達同士で話す・大勢の人の前に話す・初対面の指導教員と話す場面）によって和語・漢語・外来語について、どのような認識や知識を持地、使い分けるか。また、中国人日本語学習者にはどのような使用傾向があり、その原因は何かについて検討する。

分析の結果、まず、全体的に、日本人大学生は場面によって語彙を使い分けられていることが明らかになった。すなわち、友達同士では、外来語、和語、漢語の順となり、公的な場面では漢語、和語、外来語の順となる。一方で、中国人学習者は場面に関わらず、漢語を選ぶ傾向にある。日本人大学生は細かく語種を使い分けるのに対し、中国人学習者の使い分けは大まかになりやすい。そして、日本人大学生は、グローバル化に伴い、英語由来の外来語の使用を好むのに対し、中国人学習者は、母語の影響と学習環境の影響から漢語を使うことを好む。また日本語教科書における語種に関する記述が十分ではないために、漢語を多く使用する傾向にあることも明らかになった。

# 目次

序	1
第一章 研究背景と仮説の提示	
1.1 問題意識	3
1.2 日本語母語話者と日本語学習者の比較の重要性	4
1.3 本研究の仮説	5
1.4 日本語の語種分類	5
1.4.1 和語	6
1.4.2 漢語	7
1.4.3 外来語	8
1.4.4 混種語	10
1.5 各語種の相対的なイメージ	10
1.6 本章のまとめ	11
第二章 場面による語種の使い分けに関する先行研究と仮説	
2.1 日本人母語話者の場面による使い分けと若者の外来語の多用	13
2.1.1 グローバル化（英語化）の影響	15
2.1.2 年齢による語種を選択	16
2.2 中国人日本語学習者の母語と学習環境からの影響	17
2.2.1 母語の影響	18
2.2.2 日本語教育における学習環境	19
2.3 本章のまとめ	20
第三章 日本人母語話者と中国人日本語学習者に対する語種の使い分けに関する調査	
3.1 調査の概要	21
3.2 語彙の選定	21
3.2.1 先行研究による語彙の選定	21
3.2.2 語彙リストの検証	23
3.3 使用場面の設定	25
3.4 調査票	26
3.5 研究対象	27
3.6 調査結果	28
3.6.1 日本人大学生の調査結果（場面 A）	28
3.6.2 日本人大学生の調査結果（場面 B）	29

3.6.3	日本人大学生の調査結果（場面 C）	30
3.6.4	日本人大学生の調査結果	31
3.6.5	中国人学習者の調査結果（場面 A）	31
3.6.6	中国人学習者の調査結果（場面 B）	32
3.6.7	中国人学習者の調査結果（場面 C）	33
3.6.8	中国人学習者の調査結果	34
3.7	本章のまとめ	34

#### 第四章 調査結果の分析

4.1	日本人大学生と中国人日本語学習者の全体的な傾向の対比	36
4.2	コレスポネンス分析による対比	38
4.3	各質問の対比	39
4.4	日本人大学生の使い分けの原因	40
4.4.1	グローバル化（英語化）の影響	40
4.4.2	各語種の特徴と年齢による選択	41
4.5	中国人日本語学習者の使い分けの原因	42
4.5.1	教材における語種の扱い	42
4.5.2	日本語能力試験から見た語彙学習の広さ（習得順序の影響）	45

#### 第五章 結論

5.1	まとめ	48
5.2	教育的示唆	48
5.3	今後の課題	50

謝辞	51
----	----

#### 参考文献

日本語文献（アイウエオ順）	52
中国語文献（拼音順）	56
英語文献（アルファベット順）	56

付録	57
----	----

## 序

現代日本語の語種は和語、漢語、外来語、混種語によって構成されている。近年、グローバル化やインターネットの普及につれ、外来語の数も大幅に増加している。そもそも、現代日本語の語彙の特徴の一つには、類義語の多いことがあげられるが、これは外国人が日本語を習得する際の大きな難点となっている（西尾 1979）。外来語の多用によって類義語がますます増加すれば、学習者の日本語学習はより困難なものとなるのではないか。井上他（2006）は、外来語の増加につれ、和語としての単語の支えがなくなると、外来語の意味がわかりにくくなり、言語生活は不便になると主張している。これは、日本人が不便に感じるだけでなく、外国人学習者にとっても障害となる。実際、日本語学習者も類義語の使い分けに難しさを感じているのが現状である。

そこで、日本語の外来語・和語・漢語を使う場合、どのような相違があるのか、日常生活の中で、語種による類義語はどのように区別されているだろうか。本研究では日本語学習者が苦勞する語種間の類義語の使い分けを解明するため、先行研究で取り上げられる語彙を集め、19組を絞り、それらの類義語を分析する。そして、日本人母語話者は場面によって和語・漢語・外来語について、どのような認識や知識を持っているか。また、中国人日本語学習者はどのような使用傾向があり、その原因は何かについて考察する。

これを踏まえて、アンケート調査の結果をもとに、日本人母語話者の使用傾向を明らかにし、中国人日本語学習者と日本人母語話者との相違点を解明し、その上で、学習者に向けて語彙選択の重要性を意識させ、日本語母語話者に学習者の使用傾向を理解させ、また、教育現場において語種の指導に資することも目的とする。

第一章では、まず語種間における類義語研究を行うにいたる問題意識を述べ、本研究の意義を明確にし、本研究の仮説を提示する。すなわち、日本人母語話者は、(1) 場面によって語種を使い分けており、(2) グローバル化（英語化）の影響によって外来語を多用する傾向がある。この一方で、中国人日本語学習者には、(1) 母語の影響によって場面に関わらず漢語を多用する傾向があり、(2) 日本語教育における学習環境によって漢語の使用が強化されているのではないか。異なる語種にわたる類義語の使い分けを考

察するにあたり、まず日本語の語種概念を検討する。

第二章では、国立国語研究所の実施した大規模調査にしたがい、日本人母語話者の使い分けの傾向と中国人日本語学習者の使い分けの問題点を検討する。また、本研究の主張する仮説について、日本人母語話者が場面により語種を使い分けるのは、グローバル化により英語に由来する外来語を使用する機会が若者には増えた一方で、中国人学習者は母語と学習環境の影響により、どの場面でも漢語の方が一番使いやすく、次は和語、そして外来語の順に使用する傾向にあるとの仮説を提示する。

第三章では、日本人母語話者と中国人日本語学習者に対する語種の使い分けに関する調査の概要、語彙の選定、使用場面の設定、調査票、調査対象を確認し、調査結果を考察する。まず、調査用の類義語間の語種の語彙について 19 組を選定し、教育領域において「友達同士で話す場面」、「大勢の人の前で話す場面」、「初めて会う先生と話す場面」という場面を設定する。日本人大学生と中国人母語話者を対象にし、アンケート調査を通して、類義語間の語種に関する使用傾向を把握し、中国人学習者と日本人母語話者の使用傾向の相違を示す。

第四章では、日本人大学生と中国人日本語学習者の使用傾向の結果をコレスポンデンス分析による対比をし、各質問の対比まで詳細に分析し、また、その原因を詳しく検討する。

第五章では、本研究のまとめを行い、本研究の限界および教育的示唆を述べる。

## 第一章 研究背景と仮説の提示

本章では、語種間における類義語の使い分けを主題とする動機を述べ、問題提起を行う。そして、日本人母語話者と中国人日本語学習者の語種の使用に関する仮説を提示し、本研究における語種を定義する。

### 1.1 問題意識

近年、グローバル化やインターネットの普及につれ、外来語の使用が大幅に増加している。井上他（2006）は、外来語の増加につれ、和語による意味の支えがなくなると、外来語の意味がわかりにくくなると指摘する。「アイデンティティー」や「プライバシー」のような外来語は、もともと日本語に対応する概念がなく、カタカナ書きによって日本語に取り込まれた。このような単語は、日常性や具体的な意味の支えが低いため、言語生活は不便になっていく。

しかも、外来語の多用は日本人が不便に感じるだけでなく、日本語学習者にも大きな障害となる。日本語には、外来語のほかに、和語と漢語があり、例えば、「宿屋、旅館、ホテル」のように、語種間で意味の近い類義語があり、それぞれの語種にはニュアンスの違いがある。外来語が増加すればするほど、外国人の日本語学習者は、和語、漢語、外来語をどのように使用し、選択するべきかに悩まされる。

外国人の「外来語」と他の語種の使い分けに関する戸惑いについて、彭（2003）は次のような指摘を行っている。

「牛乳」と「ミルク」は同じだと思って、駅前の売店で「牛乳」を買うつもりで「ミルクをください」と言ったため、売店の人に笑われた留学生の失敗談を聞いた。一方、喫茶店などで注文する場合、「牛乳」といわずに、「ホットミルク」という。コーヒーに入れる生クリームは「ミルク」と呼んだり、関西などでは「フレッシュ」と呼んだりしているので、さらに中国人大学生を困惑させてしまう。(p.79)

学習者は、語種が異なっても意味が近いことを理解している。しかし、実際に使用する場面で、どのように使用するのかわからない。日本人は無意識に語種を使い分けている（柿木 2012）のだが、彭（2003）と周（2014）が指摘するように、日本語学習者は語種の選択に悩まされやすい。もちろんどのような言語にも類義語は存在し、学習者はその使い分けに悩む。日本語は、漢字、ひらがな、カタカナに対応して、三種類の語種が存在し、それぞれの語種に類義語があるため、他の言語に比べてより難しい。

外来語は新たな表現をもたらし、日本語をより豊かにするという利点がある反面、むやみに使用すると円滑なコミュニケーションの障害となる。そこで本研究は、日本人はなぜ外来語を多用するのか、外来語・和語・漢語の使い分けに、どのような相違があるのか、また日本人と中国人では語種の語彙選択に関する基準が異なるのか、このような問題意識を取り上げる。

## 1.2 日本語母語話者と日本語学習者の比較の重要性

類義語研究に関して、坂口（2014）は、これまでの調査において意識化されていない日本語母語話者の使い分けの分析の必要性を指摘している。さらに、学習者の産出面にも注視し、単語の意味だけではなく、使用場面や使い分けに関する説明も明示的になると主張している。

従来語種間での類義語に関する研究には、言語史や語彙分析の研究が蓄積されている。しかし、日本人母語話者が、相手や場面に対してどのような認識を持つのか、外国人日本語学習者にどのように使い分けるのかについては、十分に解明されていない。

本研究では、世界の日本語学習者で最も比率の高い中国人日本語学習者を対象に語種の使い分けに関する調査を行う。中国人日本語学習者をみると、高等教育機関における学習者が最も多く、彼らは日本へ留学する機会も多いため、彼らをインフォーマントとする。日本人母語話者は大学生をインフォーマントとし、日本人母語話者と中国人日本語学習者との比較を行う。



### 1.3 本研究の仮説

本研究は、先行研究の明らかにするように、日本人母語話者は、(1) 場面によって語種を使い分けており、(2) グローバル化（英語化）の影響によって外来語を多用する傾向があるとの仮説を提出する。一方で、中国人日本語学習者については、(1) 母語の影響によって場面に関わらず漢語を多用する傾向があり、(2) 日本語教育における学習環境によって漢語の使用が強化されているとの仮説を主張する。

日本人は友達とのくだけた場面では外来語を多用し、大勢の前で話すような公的な場面では漢語を使用する比率が高まるが、中国人日本語学習者は場面に関係なく漢語を使用する。場面を考慮せずに漢語を使用することは、日本人にとっては不自然な印象を与えるが、教科書で「正しい」日本語として漢語を学んだ学習者はそれに気付きにくく、上級者ほど漢語を使用する傾向にある。

### 1.4 日本語の語種分類

語種の分類については、単語の出自によって、主に単種と複種、固有語と外来語という二つの形式にまとめることができる。鈴木・長尾（2012）、秋元（2007）は、日本語の語種はその出自によって大きく4種類に分けることができると主張し、図1（秋元2007, p.62）のようにそれぞれ単種か複種に分類する。また、沖森（2010）は固有語か否かに着目し、固有語の和語と借用語の漢語と洋語（外来語）とに分類している。この分類では、図2のように（秋元2007, p.62）、まず日本語本来の固有語と外部からの借用語に二分し、借用語をさらに漢語と外来語に分類する。

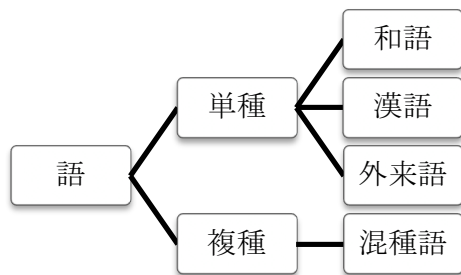


図1 秋元 2007, p.62

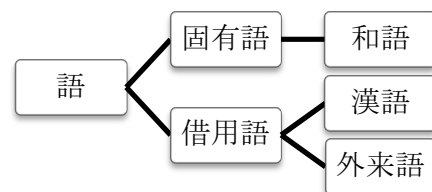


図2 秋元 2007, p.62

#### 1.4.1 和語

##### (1) 定義

田中（1978）によれば、日本語本来の語は和語といい、また「やまとことば」とも呼ばれる。鈴木・長尾（2012, p.44）は「日本に外国語等が流入する以前からあった日本語固有の語、及びそれから転化・派生した語を和語と称する」と定義づけるが、古代の中国から入った「馬（うま）」「梅（うめ）」などの語や、朝鮮語から入った「てら（寺）」「しま（島）」や、そのほかアイヌ語からも語彙の借用があった可能性がある。しかし、秋元（2007）はこれらが借用語であったとの証拠はなく、また、現在では借用語としての認識もないと反論する。

本研究においては、和語は漢語を含めない固有語とし、漢字で表記しても、訓読みをする場合は和語として扱うこととする。

##### (2) 特徴

和語の特徴について、張（2014）は、以下の 5 点（音節、読み方、品詞分布、語の具象、造語力）を指摘している。

- ① 音節構造が単純である（一般的に一音節語と二音節語が多い、三音節以上の語はその中に一音節と二音節の接辞を含めることが多い）。
- ② 訓読みも多い（例えば、「偽→偽物：にせもの、偽る：いつわる」）。
- ③ 全品詞に分布する。特に動詞について和語が優勢である。
- ④ 抽象的な語より具体的な語の方が多い、特に「もの、とき、こと、ところ、ため」のような形式語が多い。主要な部分は生活用語である（擬音語と擬態語も含める）。
- ⑤ 事物や実態を的確に表現力は弱い、つまり、単独で使用されることも多く、造語力に乏しい。

## 1.4.2 漢語

### (1) 定義

田中（1978）は、漢語が漢字の字音によって作られているために、字音語とも呼ばれていると主張する。そのため、近代中国語から直接に入ってきた「マーじゃん（麻雀）・ラーメン（老麺）・ワンタン（雲吞）」などの語は、漢語に含めない。また漢語をまねて日本で作られた和製漢語も含まれると明言する（秋元 2007）。田中（1978）が指摘するように、秋元（2007）も「麻雀（マーじゃん）」「拉麺（ラーメン）」のような近代中国語から入った語は漢語に含めず、外来語とみなしている。

本研究における「漢語」とは、主に以前中国から伝わって日本語になった語や、字音を用いて日本で作られた語を指す。

### (2) 特徴

金田一（1982）によれば、一般の日本人は、漢語を和語同様に固有の日本語と思い込んでいる傾向がある。また張（2014）は、漢語の特徴が和語の特徴とずれたところに多いと指摘しており、主に以下の点を挙げている。

- ① 音読みが多い（例えば、漢音、呉音、唐音等）、特に漢字一字は二音節のものが多い。
- ② 濁音は語頭に多いが、半濁音は少ない。（例えば、「平等：びょうどう」「銀杏：ぎんなん」）
- ③ 文章語としてよく使用され、抽象的概念を示す語が多い。（例えば、「人類、動物、自然界、植物」のような概念）
- ④ 漢語名詞の中で動詞性名詞は圧倒的に多い。（例えば、「運動する」「生活する」）
- ⑤ 語尾に「い」「しい」を付けて形容詞化させ、「だ」を付けて形容動詞にする語彙があり、漢語は単独、または「に」「と」を伴って副詞を形成することができる。（例えば、「可愛い」「簡単だ」「単に」）
- ⑥ 同音語が多く、強い造語能力を持つ。

- ⑦ 複雑な内容を表す場合、言葉が冗長にならないようによく使われる。

### 1.4.3 外来語

#### (1) 定義

田中（1978）は、借用語全体を「外来語」と呼ぶこともあるが、通常は、借用語の中で、日本語の語彙に最も大きな影響をもたらした、西欧語系の借用語を「外来語」とすることが多いと定義する。

秋元（2007）は、外来語を「洋語」とも呼び、日本で作られた「ナイター」「テーブルスピーチ」などの和製英語や、「ポスト（英語では郵便、郵便物の意味。外来語では郵便ポストの意味）」「アラカルト（フランス語ではメニューによっての意味で、外来語では一品料理の意味）」のような、原語とは異なる意味や表現で用いられる日本語独特なものも外来語に含めている。

現代日本語における外来語の8割以上は英語からの借用語であるが、時代順にみると、室町時代末期にはポルトガル語から、江戸時代中期にはオランダ語から、明治時代以降は英語・フランス語・ドイツ語などから受け入れた語が多い。例えば、英語以外の外来語には、「カフェオーレ」や「ユニーク」（フランス語）、「ゼミナール」や「テーマ」（ドイツ語）、「オペラ」や「ソロ」（イタリア語）、「トロイカ」や「ノルマ」（ロシア語）などがある。

本研究において、外来語とは洋語であり、英語・ドイツ語・フランス語等、主としてヨーロッパ語から借用した西欧語系の単語で、カタカナで表記する語を意味する。

外来語とカタカナ語の関係性について、甲斐（2003）は、カタカナ語は、すべてのカタカナ表記語から擬声語、動植物名、外国の固有名詞などを除いたものとしており、外来語との大きな違いは、定着の度合いだとしている。そのため、本研究では、外来語という用語を用いる。

#### (2) 特徴

張（2014）は、日本語学習における外来語の重要性を強調し、外来語の特徴につい

て、以下の9点にまとめている。

- ① カタカナで表記されるのが多く、日常生活でよく使われる（例えば、「トマト」）
- ② 日本語音と似た発音をするため、頭の濁音が多い（例えば、「ビル」「ドラマ」）
- ③ 新鮮感やしゃれた感じがある（例えば、「ファッション」「ミーティング」「デザイン」）
- ④ 物事への露骨な言い方を避ける場合、外来語を使う（例えば、「ローン・借金」「トイレ・便所」）
- ⑤ 同音語を持つ（例えば、「パス、pass・path」）
- ⑥ 基本的に体言や用言として使用される（例えば、「スマートさ」「ハイキングする」）
- ⑦ 省略形がある（例えば、「インターネット」を「ネット」に、「アルバイト」を「バイト」に、「エアコンディショナー」を「エアコン」に）
- ⑧ 一定の造語能力がある、つまり和語・漢語・他の外来語と合わせて新しい語を作る（例えば、「モーニングサービス」）
- ⑨ 多領域に存在する（例えば、「タブレット」（ドイツ語）医学用語、「インストルメンタル」（イタリア語）音楽用語、「アトリエ」（フランス語）芸術用語、「インテリゲンチャ」（ロシア語）思想用語）

また、彭（2003）は、外来語がどのような場合によく使われるのかについて、7つの特徴や傾向を挙げている。

- ① 相手に強く印象づけようとする
- ② 意味を和らげる効果がある
- ③ 聞く人にいい響きを感じさせる
- ④ 意味をぼかす

- ⑤ 良いイメージ、新鮮さ、新しさ、モダンな感じ、豪華な華やかな感じ、高級な感じを与える
- ⑥ 意味をはっきりさせることができる
- ⑦ 新しい事物や概念を表す

#### 1.4.4 混種語<sup>1</sup>

混種語は合成語の一種で、語種の異なる語や、また、語種の異なる接頭辞・接尾辞が結合してできた語である（秋元 2007, p.74）。

秋元（2007）、沖森（2012）を参照し、混種語の種類について、表 1 にまとめる。

表 1 混種語の具体的な分類と具体例

語種の組み合わせ	前者＋後者	後者＋前者
① 和語・漢語	和語＋漢語： 例：水商売、お好み食堂、腕自慢	漢語＋和語： 例：運動靴、労働組合、粗大ごみ
② 和語・外来語	和語＋外来語： 例：歯ブラシ、生クリーム、窓ガラス	外来語＋和語： 例：プロ野球、ポリ袋、マッチ箱
③ 漢語・外来語	漢語＋外来語： 例：国際センター、電子マネー、防犯ブザー	外来語＋漢語： 例：データ分析、デジタル放送、ヒット曲

#### 1.5 各語種の相対的なイメージ

語種間の相対的なイメージに関して、宮島（1944）、金田一（1982）、飛田・佐藤（2002）、多門・半沢（2005）、秋元（2007）、斉藤（2002）、柿木（2012）、鈴木・長尾（2012）、

<sup>1</sup> 混種語：表1の具体例以外に他の組み合わせ語も存在する。しかしながら、本研究ではもっぱら外来語、漢語、和語を考察するため、主要なキーワードとして混種語を取り扱わない。

小森 (2014)、周 (2014)、張 (2014)、村中 (2015) ら多くの研究が言及している。

これらの研究によれば、和語はやわらかく、一般的、全体的で日常的なイメージがある。これに対して、漢語は改まった語感を伴い、大規模、公的、文章語的（公的な場で使われる）、分析的（細かい意味を表わすことができる）というイメージを持つ。和語と漢語が日本に古くから存在するものを表すのに対して、外来語は、「しゃれた」「モダンな」「明るい」「カッコイイ」などのニュアンスを伴い、一般に西洋的、近代的、新鮮といったイメージを持つことが多い。

書き言葉の場合、和語の使用度が漢語に比べて高くなると秋元 (2007) は述べている。和語は少ない種類の語が繰り返し使用され、漢語は逆に使用される語の種類は多くても、それぞれの語の使用頻度は低い。そして、外来語に関していえば、その増加がよく話題となるが、外来語が基本的な語彙に与える影響はほとんどない。

漢語は、中国文化に対する尊敬の気持ちから、高い文化を担った教養のある階層の言葉とみなされ、和語より一段高いものと見られてきた。また、「やどや」よりも「旅館（りょかん）」の方が立派そうな感じがすることや、「ちかめ」というより「近眼（きんがん）」の方が言われても不快ではないという回答も挙げられる。したがって、漢字が同じ場合でも、漢語と和語の読み方によって、「丁寧」や「普通」など文に対する感じも違うと金田一 (1982) は指摘している。

また、張 (2014) は、使用される分野をみると、漢語と外来語は似ており、伝統的にみると、漢語と外来語は優雅感を持ち、政治、科学、哲学、文化、経済などの方面でよく使われていると分析している。

## 1.6 本章のまとめ

本章では、語種間における類義語研究を行うに至った問題意識と研究の必要性を確認し、本研究の仮説を提示した。和語、漢語、外来語、混種語によって構成される日本語の語種に関する研究は多くの蓄積があり、使い分けに影響する語種のイメージの違いも指摘されている。

では、日本人母語話者と中国人日本語学習者は、実際にどのように語種の使い分けを

行っているのだろうか。続く第二章では、国語国立研究所の大規模調査によって、日本人母語話者の使い分けの傾向と先行研究の指摘する中国人日本語学習者の使い分けの問題点を検討する。



## 第二章 場面による語種の使い分けに関する先行研究

本章では、国語国立研究所の大規模調査に従って、日本語母語話者の使用傾向、ならびに先行研究における中国人日本語学習者の使用傾向をそれぞれまとめ、その問題点を指摘する。

### 2.1 日本人母語話者の場面による語種の使い分けと若者の外来語の多用

日本人母語話者の外来語の多用と語種の使い分けに関して、国立国語研究所（2008）は調査を実施し、「日頃読んだり聞いたりする言葉の中に、外来語や外国語などのカタカナ語を使っている場合が多いと感じるかどうか」という質問に対して、「よくある」と「たまにある」の合計が 86.1%にのぼると報告する。

また、語種の使い分けに関して、国立国語研究所（2005）『平成 16 年度 国語国立研究所全国調査報告書 外来語に関する意識調査 II（全国調査）』（以下に、『全国調査報告書 2005』略す）は、日本人母語話者が和語・漢語・外来語の語種を場面によって細かく使い分けていることを明らかにしている。『全国調査報告書 2005』は、層化二段無作為抽出法によって、沖縄以外を除く全国規模で実施された調査方法で、「友達同士で話す時」、「大勢の人の前で話す時」、「初めて会うお年寄りと話す」の 3 つの場面での語種の使い分けに関する質問を行っている。調査票の具体的な内容は次の通りである。

問 1 友達同士で話す時、次のどの言葉を使いますか？（○は 1 つ）

新しく農業を始めるには、地域の	サポート	が必要です。
	支援	
	手助け	
	分からない	

問 2 大勢の人の前で話す時、次のどの言葉を使いますか？（○は1つ）

新しく農業を始めるには、地域の

サポート	が必要です。
支援	
手助け	
分からない	

問 3 初めて会うお年寄りと話す時、次のどの言葉を使いますか？（○は1つ）

新しく農業を始めるには、地域の

サポート	が必要です。
支援	
手助け	
分からない	

（質問の全文については『全国調査報告書 2005』、p.125 を参照）

調査結果における回答者の全体的な使用傾向（表 2）をみると、友達同士では和語と外来語を、大勢の人の前では漢語を、初めて会うお年寄りとは和語の使用がそれぞれ多い。この調査結果は、日本人母語話者が場面によって語種の使い分けをしており、さらに聞き手によっても使い分けをしていることを示している。

表 2 『全国調査報告書 2005』において、場面による和語・漢語・外来語の使い分けに関する全体使用傾向

	手助け	支援	サポート	分からない
友達同士で話す時	39.0%	25.6%	33.4%	2.0%
大勢の人の前で話す時	22.9%	47.1%	27.3%	2.7%
初対面のお年寄りと話 す時	81.6%	13.0%	3.3%	2.1%

（『全国調査報告書 2005』より、p.18）

友達同士では和語と外来語を多用し、大勢の人の前では漢語を用いようとする傾向は、

学生においてさらに顕著になる。表 3 は、学生における語種の使用傾向をまとめたものである。学生が友達同士で話す時、外来語の使用は 5 割近くに達し、大勢の人の前では漢語の使用が 6 割近く、初対面のお年寄りの前では和語の使用が 7 割を超える。同様の傾向は、年齢層別に見た 20～24 歳の若者にも見られ、友達同士の外来語の使用率は 53%に達する。

表 3 学生における語種の使用傾向

	和語	漢語	外来語	分からない
友達同士で話す時	34.5%	16.9%	46.9%	1.7%
大勢の人の前で話す時	8.5%	58.2%	32.2%	1.1%
初対面のお年寄りと話す時	72.9%	20.3%	6.2%	0.6%

(『全国調査報告書 2005』より、p.19、p.24、p.29)

この傾向は『全国調査報告書 2005』だけでなく、周 (2014) が日本人大学生を対象に行った語種による類義語の使用実態に関する調査でも確認されている。周 (2014) は、和語・漢語・外来語の組み合わせ 15 組 (「めし・ご飯・ライス」「取り消し・解約・キャンセル」「踊り・舞踊・ダンス」等) の語を調査語とし、使用場面等に関する調査を実施し、外来語の使用は日常場面においてはるかに高いとの結果を得た。

では、大学生や若者はなぜ、日常的な場面で、友達と話す際に外来語を多用するのだろうか。次節はこの点を考察する。

### 2.1.1 グローバル化 (英語化) の影響

外来語が日本の言語社会に取り入れられる背景について、国立国語研究所 (2006) の「外来語と現代社会」は主に次の 3 点から説明を試みている。

- ① それまでになかった事物や概念を取り入れたもの。これらは語彙体系の中の空所を

埋める。

例：インターネット、コンビニエンスストア、ラッキーセブン

- ② 新しさを積極的に打ち出すために取り入れたもの。新鮮な語感を出すために、既存の語彙体系に、ほぼ同じ意味の類義語があるもの、新規さを際立たせる。

例：ショッピング、リビングルーム、ストラテジー

- ③ 独自の用法として差別化する必要から取り入れたもの。これらの語には語彙体系をより詳細に分節して、表現の幅を広げる効果がある。

例：サポーター（ファンとの差別化）、イリュージョン（マジックとの差別化）

（国立国語研究所 2006, p.79）

外来語の使用について、矢崎（1964）は、外来語は外国語の語句を日本語に借り入れたもので、その使用が社会習慣として確立したことを示すと分析しているが、これは①の語彙の空所を埋める外来語に相当する。また、西崎（2013）は昔から現在まで、どの時代をとっても、国家間の文化的、経済的な交流により、一方の国に新しいものの考え方や、文化などがもたらされると説明しているが、これは国の外来語に新鮮さや新規性を求める外来語に該当する。

これらの借用語や言語接触からの説明に対し、大谷（2007）は、近年のグローバル化（英語化）の影響を強調する。海外との情報交換が不可欠なコンピュータ関連や、音楽、ファッションなど若者のポップカルチャーで外来語の浸透はめざましく、さかんに外来語が使用されている現状を指摘する。「グローバル化が急速に進む現代社会において英語が共通語となる傾向は加速している」（堀切 2013, p.117）という言語環境の下、英語由来の外来語の使用は「国際語としての英語を使用している」（鳥飼 2011, p.16）という感覚と関連している。これが若者における外来語多用の背景にあると考えられる。

### 2.1.2 年齢による語種の選択

語種には特徴やイメージがあり、柿木（2012）は「日本語の語種が変化する要因として、より洗練されたイメージを持つ言葉に変わることが考えられる。特に、日本語の

場合、「和語→漢語→外来語」というような変遷を辿ることが多いようである」(p.60)と語種が「洗練」されて、外来語に落ち着くと主張する。しかしながら、陣内他(2013)は、日本社会の国際化や情報化に伴い、英語の比重が高まる一方で、高齢化や社会格差の増大によって情報弱者が増えており、外来語を理解できない人々も存在すると指摘する。

外来語の使用を年代別にみると、年配の世代にとって外来語は覚えにくく、好ましくないと批判的であるのに対し、若い世代は外来語に使いやすさを感じ、その使用を好ましいと考えていると国立国語研究所(2006)は分析する。外来語は若い世代にとって親密度が高い言葉が多いため多用されるが(堀切 2013)、世代間の違いから、コミュニケーション・ギャップを引き起こす原因ともなる(林 2011)。

ただし、外来語の使用に関しては話し手の年代による差だけでなく、使用場面や聞き手も考慮されると、堀切(2013)は指摘している。『全国調査報告書 2005』でも初対面のお年寄りに話す場面において、お年寄りを聞き手とすることが考慮され、外来語の使用は大幅に減っている。

本節では、日本人母語話者が語種を選択する際、使用場面により語彙の選択を行い、若者は聞き手が若者の場合、外来語を使用し、聞き手が若者でない場合は外来語の使用を控える傾向があることを確認した。

## 2.2 中国人日本語学習者の母語と学習環境からの影響

日本語の単語は語源の観点から、和語・漢語・外来語に区分されるが、中国人日本語学習者にとっては、漢語だけではなく、和語の多くも意味の類推が可能である。例えば、「幸せ」(和語)、「幸福」(漢語)、「ハッピー」(外来語)の場合、和語と漢語は中国語に共通する「幸」の字が含まれるため、これらの単語は習得しやすい。しかし、カタカナ語である外来語の習得は、手がかりがまったくないため、非常に難しく感じられる場合が多い。李・阪谷(2006)は、中国人留学生 50 名を対象に、日本語の単語学習の困難さに関する調査を実施したが、8 割以上の中国人日本語学習者が、カタカナ語の学習が最も難しいと回答した。この調査では和語と漢語の語彙に関して、中国人日本語学習

者は、漢字語彙の知識を援用できるため、それほど難しくないと感じていることを指摘している。

中国人日本語学習者は日本語を運用する際に母語に近い漢語と和語を選択し、親しみのない外来語は敬遠することから、そこには母語の影響が考えられる。この母語の影響は、日本語教育を取り巻く学習環境によってさらに強化される可能性もある。

### 2.2.1 母語の影響

艾・胡 (2008)、王 (2015)、張 (2016) らは、中国人日本語学習者は日本語を習得する過程において、必ず母語から一定の影響 (干渉) を受けると主張している。事実、日本語と中国語の漢字表記には、共通する点が多い。「中国で通常使用される常用字彙約 4,000 字のうち、日本語の常用漢字(1,945 字)の 98.1%にあたる 1,908 字は中国語の漢字と重なっている」(玉岡・大和 2009, p.118)。そのため、中国人日本語学習者にとって、日本語の漢字はほとんど「知っている」といえる。中国人日本語学習者は、既知の漢字を組み合わせた日本語の漢語だけでなく、漢字が使用された和語に関しても同様に、中国語の語彙知識を活用して効率的に処理することができる。日本語のひらがなは中国語の漢字の草書体から変化し、カタカナは楷書体の偏旁冠脚により造られたものである。日本人が昔の中国の漢字を真似し、日本語に漢字を作って以来、日本人は漢字の語形だけではなく、語義も吸収した。そのため、中国人学習者にとって、日本語の「漢語」を学ぶのは容易である。これは中国語から日本語の語彙に関する正の転移である。

しかし、王 (2008)、么 (2011) や張 (2016) は、中国語から日本語への負の転移についても指摘し、特に日中同形類義語については、同じ文字を使うことによって、相手のことがわかるのは当然だと思うからこそ、誤解を招く原因になりがちだと主張する。このように日本語を中国語と「同文」と思い込む心理は、日本語における漢語の正確な理解を妨げ、漢字が使用されていないひらがなだけの和語やカタカナによる外来語への苦手意識を生み出す。

さらに、音声面から見ても、中国人学習者は英語由来の外来語を連想することが困難である。中国にいてもグローバル化 (英語化) は進展しており、多くの学習者が英語教

育を受けているが、中国人が把握する英語の音韻体系とカタカナ表記は全く異なる。

このように中国人日本語学習者には漢字による正の転移と負の転移が認められるが、さらに日本語教育における学習環境も影響していると考えられる。

### 2.2.2 日本語教育における学習環境

中国人日本語学習者にとって外来語が苦手な原因は、母語の影響だけでなく、日本語の学習環境も影響している。まず、学習段階によって学ぶ語種が異なることが挙げられる。小森他（2012）は、和語と漢語の習得段階を調査し、初級では易しい話し言葉で学習が進められるため、汎用的な和語を使用する機会が多く、中級以降、書き言葉が増え、漢語の導入が増加すると指摘する。このことは、漢語を多く使用すればするほど日本語のレベルが高くなるとの誤解を学習者に与えることとなる。教師や教材は、語種をバランスよく提示し、語種の使い分けについて認知的な解説を行い、運用の練習を行う必要がある。

次に、中国での日本語学習において、自然な日本語に触れる機会の限定されていることが挙げられる。中国の大学では日本人教師がいても、学習者が日々日本語を話す環境で学習できないため、自然習得の環境と大きく異なる。坂本他（2008）は、教師が唯一の母語話者であることが多く、学習者にとって、インプットはほぼ教室内で行われ、その量も限られていると指摘する。

さらに、王（2011）は、中国語の外来語は意識が多いため、音読された外来語に不慣れなことを挙げている。王（2011, p.9）は「中国語を母語する学習者がカタカナで表現する外来語の学習が不得手だと言っても、それは言語の特性上不得手だということではなく、そのようにコントロールされた言語的環境ゆえに、音訳の外来語を使う機会がなかったのが不得手になってしまったことなので、学習項目をそれなりに与えればきちんと習得できる可能性は大いに残っているとみて良い」と学習環境の影響を強調する。

### 2.3 本章のまとめ

本章では、まず日本人母語話者の語種の使い分けに関する先行研究に基づき、年齢層と場面によって使用する語種が異なり、若者は外来語を多用する傾向があるものの、聞き手に配慮した使い分けを行っていることを確認した。その理由は、グローバル化により英語由来の外来語を使用する機会が若者に増えた反面、高齢者への配慮が行われた外来語をそれほど使っていないためと考えられる。

続いて、先行研究によって、中国人日本語学習者が、外来語の学習に困難を感じていることを検討し、その理由として、母語の影響と日本語教育における学習環境からの影響があることを指摘した。中国人日本語学習者は漢語をハイレベルな日本語と考えて多用し、語種をバランスよく学んで、適切な指導を受けていない可能性がある。



### 第三章 日本人母語話者と中国人日本語学習者に対する語種の使い分けに関する調査

本章では、まず、日本語母語話者と中国人日本語学習者が実際にどのように類義語間の語種の使い分けを行っているのかを検証するための調査の概要を提示する。次に、調査票の語彙および使用場面の設定を説明し、調査対象と調査結果について考察する。

#### 3.1 調査の概要

1.3 で提示した仮説を検証し、語種の使い分けの基準を解明するために、日本語母語話者と中国人日本語学習者に対する質問紙<sup>2</sup>による調査を行った。3.2 で調査用の語彙を提示し、インフォーマントには表 6 の語彙リストの和語・漢語・外来語の中から、場面ごとに適切なものを一つ選んでもらった。場面については、場面 A: 友達同士と話す時、場面 B: 大勢の人の前で話す時、場面 C: 初対面の指導教員と話す時の三つの場面を設定した。

#### 3.2 語彙の選定

##### 3.2.1 先行研究による語彙の選定

語種による類義語の使い分けについては、外来語と漢語との間（例えば、「テキスト」と「教科書」）、外来語と和語との間（例えば、「ストロベリー」と「苺」）、漢語と和語との間（例えば、「挙げる」と「列举」）の類義語に関する研究が多く見られるが、和語・漢語・外来語の三つの語種に関する先行研究は少ない。そのため、彭飛（2003）、国立国語研究所の全国報告書（2004・2005）、周（2014）が取り上げた類義語をまとめ、全部で 25 組（表 4）の類義語を集めた。

表 4 先行研究による語種における類義語間の語彙リスト

番号	和語	漢語	外来語
1	商（あきな）い	商売（しょうばい）	ビジネス
2	危（あや）うさ	危険（きけん）	リスク

<sup>2</sup> 調査票は付録1を参考。

3	過 (あやま) ち	過失 (かしつ)	ミス
4	色 (いろ)	色彩 (しきさい)	カラー
5	お手洗 (てあら) い	便所 (べんじょ)	トイレ
6	お手入 (てい) れ	介護 (かいご)	ケア
7	男前 (おとこまえ)	美男 (びなん)	ハンサム
8	踊 (おど) り	舞踊 (ぶよう)	ダンス
9	泳 (およ) ぎ	水泳 (すいえい)	スイミング
10	幸 (しあわ) せ	幸福 (こうふく)	ハッピー
11	健 (すこ) やか	健康 (けんこう)	ヘルシー
12	旅 (たび)	旅行 (りょこう)	トラベル
13	台所 (だいどころ)	厨房 (ちゅうぼう)	キッチン
14	釣 (つ) りあい	均衡 (きんこう)	バランス
15	手紙 (てがみ)	書簡 (しょかん)	レター
16	手助 (てだす) け	支援 (しえん)	サポート
17	取 (と) り消 (け) し ・取 (と) り消 (け) す	解約 (かいやく) ・解約する	キャンセル ・キャンセルする
18	長屋 (ながや)	集合住宅 (しゅうごうじ ゆうたく)	アパート
19	習 (なら) い ・習 (なら) う	学習 (がくしゅう) ・学習する	スタディ(ー) ・スタディ(ー)する
20	速 (はや) さ	速度 (そくど)	スピード
21	判子 (はんこ)	署名 (しよめい)	サイン
22	本 (ほん)	書籍 (しよせき)	ブック
23	店 (みせ)	商店 (しょうてん)	ショップ
24	めし	(ご) 飯 (はん)	ライス
25	宿屋 (やどや)	旅館 (りょかん)	ホテル

### 3.2.2 語彙リストの検証

表4の語彙リストの妥当性を検証するため、朝日新聞のオンライン全文記事のデータベース「聞蔵II」<sup>3</sup>（以下に、「聞蔵II」を称する）を用いて、1985年から2016年9月2日まで収録されたオンラインの新聞記事を対象とし、それぞれの組（まとめた25組）の使用状況を検索した。表5は、その結果をまとめたものである。

表5 「聞蔵II」における検索結果（2016年09月02日まで）

	和語	漢語	外来語	最新情報	総件数
1	商い	商売	ビジネス	2014.12.14	44
2	危うさ	危険	リスク	2016.03.14	66
3	過ち	過失	ミス	2011.08.12	18
4	色	色彩	カラー	2016.08.22	1364
5	お手洗い	便所	トイレ	2005.08.31	7
6	(お)手入れ	介護	ケア	2016.08.15	104
7	男前	美男	ハンサム	2008.10.30	4
8	踊り	舞踊	ダンス	2016.08.10	1327
9	泳ぎ	水泳	スイミング	2016.09.01	969
10	幸せ	幸福	ハッピー	2016.02.20	67
11	健やか	健康	ヘルシー	2016.02.29	8
12	旅	旅行	トラベル	2016.08.11	1432
13	台所	厨房	キッチン	2015.06.08	23
14	釣り合い	均衡	バランス	2008.12.04	8
15	手紙	書簡	レター	2016.04.14	39
16	手助け	支援	サポート	2016.07.07	599
17	取り消し	解約	キャンセル	2015.04.07	31
18	長屋	集合住宅	アパート	2015.12.26	29

<sup>3</sup> 「聞蔵II」：1879年創刊、135年を超える紙面から約1500万件の記事・広告が検索できる日本国内最大級の新聞記事データベースであり、1985年以降の記事は全文検索方式で読むことができる。

19	習い (う)	学習 (する)	スタディ (ー) (する)		0
20	速さ	速度	スピード	2016.08.16	284
21	判子 →ハンコ	署名	サイン	2016.02.12	5
22	本	書籍	ブック	2016.08.30	1517
23	店	商店	ショップ	2016.08.28	4547
24	めし	ご飯	ライス	2015.10.30	46 (74) おすすめし たい、恨めし く、スライ ス、厳めしい 等除き
25	宿屋	旅館	ホテル	2016.07.01	32

注：() 内の数字は総件数を表す。

表 5 では、25 組の語彙に関する最新更新日および総件数を提示した。25 組のうち、「お手洗い・便所・トイレ」「男前・美男・ハンサム」「健やか・健康・ヘルシー」「釣り合い・均衡・バランス」「習い・学習・スタディ」「判子 (ハンコ)・署名・サイン」の 6 組は総件数が少なく、使用度が低いと考えられるため、リストから除外し、最終的に 19 組の語彙を選定した (表 6)。

表 6 調査に用いた語彙リスト

番号	和語	漢語	外来語
1	商 (あきな) い	商売 (しょうばい)	ビジネス
2	危 (あや) うさ	危険 (きけん)	リスク
3	過ち (あやま) ち	過失 (かしつ)	ミス
4	色 (いろ)	色彩 (しきさい)	カラー
5	お手入 (てい) れ	介護 (かいご)	ケア

6	踊（おど）り	舞踊（ぶよう）	ダンス
7	泳（およ）ぎ	水泳（すいえい）	スイミング
8	幸（しあわ）せ	幸福（こうふく）	ハッピー
9	旅（たび）	旅行（りょこう）	トラベル
10	台所（だいどころ）	厨房（ちゅうぼう）	キッチン
11	手紙（てがみ）	書簡（しょかん）	レター
12	手助（てだす）け	支援（しえん）	サポート
13	取（と）り消（け）し	解約（かいやく）	キャンセル
14	長屋（ながや）	集合住宅（しゅうごうじゅ うたく）	アパート
15	速（はや）さ	速度（そくど）	スピード
16	本（ほん）	書籍（しょせき）	ブック
17	店（みせ）	商店（しょうてん）	ショップ
18	めし	ご飯（はん）	ライス
19	宿屋（やどや）	旅館（りょかん）	ホテル

語彙リストの品詞は、13 番「取り消す・解約する・キャンセルする」の動詞を除いて、その他 18 組はすべて名詞である。「幸せ（な）・幸福（な）・ハッピー（な）」の組は形容詞と名詞の二つの品詞の性格を持っているが、本研究では、名詞として扱う。外来語において、名詞が多いことは、国語国立研究所の『現代雑誌九十種の用語用字』（1964）における品詞別語種別の語彙分布の結果と一致する。

### 3.3 使用場面の設定

使用場面の設定にあたっては、国立国語研報告 102 卷（場面と場面意識：相手の分類）（1990）、郡（2003）、欧州評議会（2008）と『全国調査報告書 2005』の使用場面を参照し、大学生が日常的に言語活動を行う教育領域、特に学校領域を中心とし、「友達同士で話す場面」、「大勢の人の前で話す場面」、「初めて会う先生と話す場面」という三つの場面を設定することとした。

### 3.4 調査票

調査に用いる質問は国立国語研究所(2005)を参照し、下記の19の質問を作成した。

- ① (商い・商売・ビジネス・分からない) を始めるにあたって、乗り越えなければならない壁があります。
- ② 自転車事故の(危うさ・危険・リスク・分からない) に備えて、保険に加入しておくことはとても大切です。
- ③ 学校側に(過ち・過失・ミス・分からない) が認められるものについて、詳しく説明を行っています。
- ④ (色・色彩・カラー・分からない) に対するイメージは、文化、国家を超えて世界共通です。
- ⑤ このサービスの中にはお庭の(お手入れ・介護・ケア・分からない) や水まきというサービスは含まれていません。
- ⑥ 日本(踊り・舞踊・ダンス・分からない) を習っているので着物の女性が多い。
- ⑦ どの子にも(泳ぎ・水泳・スイミング・分からない) を楽しめるようになってほしいです。
- ⑧ (幸せ・幸福・ハッピー・分からない) を感じるポイントは人それぞれ違います。
- ⑨ この雑誌は会話例を多数掲載した(旅・旅行・トラベル・分からない) 言語フレーズ集です。
- ⑩ 自宅には月2回、帰る。帰らない週末は、部屋の(台所・厨房・キッチン・分からない) で自炊するようになった。
- ⑪ (手紙・書簡・レター・分からない) の文体に、それぞれの個性が生まれていった。
- ⑫ 新しく農業を始めるには、地域の(手助け・支援・サポート・分からない) が必要です。
- ⑬ (取り消す・解約する・キャンセルする・分からない) 時に発生する料金を教えてください。
- ⑭ (長屋・集合住宅・アパート・分からない) とは、一棟の建物を数戸の住居に区切ったものです。
- ⑮ 読む(速さ・速度・スピード・分からない) を上げる三つの方法とは何ですか？

- ⑯ 好みの多様化にともない、(本・書籍・ブック・分からない) や雑誌の種類が増え、売り場面積の小さな店では対応できなくなった。
- ⑰ これは (店・商店・ショップ・分からない) 一覧のページです。
- ⑱ 昨日、飲食店でおかずと一緒に (めし・ご飯・ライス・分からない) を食べました。
- ⑲ ゼミ合宿するには、(宿屋・旅館・ホテル・分からない) を選ぶ幹事が多い。

### 3.5 調査対象

本研究の調査協力者は日本人大学生（京都大学の学部生）89名と中国国内の大学に属する日本語を専攻する中国語母語の学部生101名、合計190名である。内訳は、データの回収順により、中央民族大学19名、外交学院41名、福州大学20名、北京師範大学21名である。調査協力者は大学の日本語教育担当教員の指示により日本語能力試験1級に合格した学生を対象として集められた。学年別の内訳は3年生17名、4年生84名である。

インフォーマントの年齢層を大学生に限定したため、日本人大学生と中国人大学生の年齢差は大きくない。日本人大学生の平均年齢は19.2歳、中国人日本語学習者は21.1歳である。

また、複数回答や、どの場面でも同じ語彙を選んだ学生の回答を無効回答とし、日本人大学生9名、中国人日本語学習者5名の回答を取り除いた。最終的に、有効回答数は、日本人大学生は80名、中国人日本語学習者96名になった。

以下に、調査内容を簡潔にまとめておく。

調査期間：2016年11月2日～2016年11月22日

調査対象：日本人大学生（京都大学の大学生）89名

中国国内の正規大学に属する日本語専攻の中国語母語の学部生101名

（ただし、日本語能力試験1級合格を条件とする）

合計190名

有効回答：日本人大学生80名（90%）（男性52名、女性28名）

中国人大学生 96 名 (97%) (男性 21 名、女性 75 名)

合計 176 名 (92.63%)

平均年齢：日本人大学生は 19.2 歳

中国人日本語学習者は 21.1 歳

### 3.6 調査結果

#### 3.6.1 日本人大学生の調査結果 (場面 A)

日本人大学生の結果 (場面 A) を表 7 に示す。網掛けした数字は語種の中で最も多く選択された語種である (以下に同じ)。

場面 A における質問で最も多く選択された語種は、和語が 36.84% (7)、漢語が 21.05% (4)、外来語が 42.11% (8) であった。すなわち、友達同士と話す時には、外来語、和語、漢語という語種が使い分けられている。

表 7 日本人大学生が友達同士と話す時、使い分けの調査結果

場面 A	和語	漢語	外来語	分からない
1	1.25%	40.00%	57.50%	1.25%
2	2.50%	37.50%	58.75%	1.25%
3	10.00%	27.50%	61.25%	1.25%
4	85.00%	13.75%	1.25%	0.00%
5	88.75%	1.25%	8.75%	1.25%
6	6.25%	92.50%	0.00%	1.25%
7	18.75%	68.75%	11.25%	1.25%
8	81.25%	17.50%	1.25%	0.00%
9	12.50%	62.50%	17.50%	7.50%
10	57.50%	1.25%	41.25%	0.00%
11	97.50%	0.00%	1.25%	1.25%
12	28.75%	28.75%	42.50%	0.00%
13	5.00%	15.00%	80.00%	0.00%



14	3.75%	13.75%	81.25%	1.25%
15	30.00%	8.75%	60.00%	1.25%
16	87.50%	12.50%	0.00%	0.00%
17	51.25%	5.00%	40.00%	3.75%
18	1.25%	95.00%	2.50%	1.25%
19	10.00%	26.25%	58.75%	5.00%

### 3.6.2 日本人大学生の調査結果（場面 B）

日本人大学生の結果（場面 B）を表 8 に示す。

場面 A における質問で最も多く選択された語種は、和語が 21.05% (4)、漢語が 57.90% (11)、外来語が 21.05% (4) であった。すなわち、大勢の人の前で話す時には、漢語、和語・外来語、という順で使い分けられている。

表 8 日本人大学生が大勢の人の前で話す時、使い分けの調査結果

場面 B	和語	漢語	外来語	分からない
1	6.25%	33.75%	58.75%	1.25%
2	3.75%	37.50%	58.75%	0.00%
3	5.00%	88.75%	6.25%	0.00%
4	32.50%	67.50%	0.00%	0.00%
5	83.75%	0.00%	16.25%	0.00%
6	3.75%	96.25%	0.00%	0.00%
7	10.00%	82.50%	7.50%	0.00%
8	36.25%	62.50%	1.25%	0.00%
9	7.50%	77.50%	10.00%	5.00%
10	72.50%	3.75%	23.75%	0.00%
11	90.00%	10.00%	0.00%	0.00%
12	10.00%	73.75%	16.25%	0.00%
13	8.75%	53.75%	37.50%	0.00%
14	2.50%	40.00%	55.00%	2.50%

15	22.50%	40.00%	37.50%	0.00%
16	42.50%	55.00%	2.50%	0.00%
17	41.25%	21.25%	32.50%	5.00%
18	0.00%	96.25%	2.50%	1.25%
19	7.50%	37.50%	43.75%	11.25%

### 3.6.3 日本人大学生の調査結果（場面 C）

日本人大学生の結果（場面 C）を表 9 に示す。

場面 C における質問で最も多く選択された語種は、和語が 26.32% (5)、漢語が 57.89% (11)、外来語が 15.79% (3) であった。すなわち、初対面の指導教員と話す時には、漢語、外来語、和語、という順で使い分けられている。

表 9 日本人大学生が初対面の指導教員と話す時、使い分けの調査結果

場面 C	和語	漢語	外来語	分からない
1	2.50%	45.00%	52.50%	0.00%
2	1.25%	53.75%	45.00%	0.00%
3	8.75%	71.25%	18.75%	1.25%
4	47.50%	51.25%	1.25%	0.00%
5	83.75%	1.25%	13.75%	1.25%
6	3.75%	95.00%	1.25%	0.00%
7	12.50%	83.75%	3.75%	0.00%
8	43.75%	53.75%	2.50%	0.00%
9	15.00%	71.25%	10.00%	3.75%
10	78.75%	2.50%	18.75%	0.00%
11	90.00%	8.75%	1.25%	0.00%
12	18.75%	65.00%	16.25%	0.00%
13	3.75%	52.50%	43.75%	0.00%
14	3.75%	32.50%	61.25%	2.50%
15	35.00%	36.25%	28.75%	0.00%

16	56.25%	42.50%	1.25%	0.00%
17	50.00%	20.00%	25.00%	5.00%
18	0.00%	98.75%	0.00%	1.25%
19	12.50%	32.50%	45.00%	10.00%

### 3.6.4 日本人大学生の調査結果

日本人大学生の調査結果をみると、日本人大学生は場面によって語種の使い分けを行っていることがわかる。友達同士と話す時は、外来語、和語、漢語の順序で外来語を多用し、大勢の人の前で話す時は、漢語が最も多く選択された。初対面の指導教員と話す時には、漢語、和語、外来語の順に使い分けられる。

これらの調査結果は、日本人母語話者が場面による使い分けを行っており、若者同士では外来語を多用するという先行研究の指摘と一致する。大勢に向けた発話という公的場面では語種を切り換えることは、1.4.2 で検討した漢語の語種のイメージから説明できる。初対面の教師に対しては漢語と和語が多く選択され、外来語の使用率が下がるが、これは聞き手が教育領域の目上の人物であることを話し手が考慮した結果と考えられる。

### 3.6.5 中国人学習者の調査結果（場面 A）

中国人日本語学習者の結果（場面 A）を表 10 に示す。

まず、場面 A における質問で最も多く選択された語種は、和語が 21.05%（4）、漢語が 42.11%（8）、外来語が 36.84%（7）であった。すなわち、友達同士と話す時には、漢語、外来語、和語という順で使い分けられている。

表 10 中国人大学生が友達同士と話す時、使い分けの調査結果

場面 A	和語	漢語	外来語	分からない
1	3.13%	26.04%	66.67%	4.17%
2	12.50%	52.08%	35.42%	0.00%

3	12.50%	61.46%	26.04%	0.00%
4	64.58%	8.33%	26.04%	1.04%
5	42.71%	11.46%	43.75%	2.08%
6	54.17%	15.63%	30.21%	0.00%
7	27.08%	50.00%	22.92%	0.00%
8	7.29%	79.17%	13.54%	0.00%
9	17.71%	64.58%	17.71%	0.00%
10	33.33%	1.04%	64.58%	1.04%
11	80.21%	3.13%	15.63%	1.04%
12	12.50%	33.33%	54.17%	0.00%
13	9.38%	56.25%	34.38%	0.00%
14	2.08%	3.13%	93.75%	1.04%
15	6.25%	3.13%	90.63%	0.00%
16	85.42%	5.21%	9.38%	0.00%
17	14.58%	54.17%	31.25%	0.00%
18	18.75%	69.79%	11.46%	0.00%
19	7.29%	15.63%	76.04%	1.04%

### 3.6.6 中国人学習者の調査結果（場面 B）

中国人日本語学習者の結果（場面 B）を表 11 に示す。

まず、場面 B における質問で最も多く選択された語種は、和語が 10.53% (2)、漢語が 84.21% (16)、外来語が 5.26% (1) であった。すなわち、大勢の人の前で話す時には、漢語、和語、外来語という順で使い分けられている。

表 11 中国人大学生が大勢の人の前で話す時、使い分けの調査結果

場面 B	和語	漢語	外来語	分からない
1	10.42%	62.50%	27.08%	0.00%
2	15.63%	66.67%	17.71%	0.00%
3	22.92%	66.67%	9.38%	1.04%

4	26.04%	62.50%	10.42%	1.04%
5	33.33%	56.25%	9.38%	1.04%
6	32.29%	57.29%	10.42%	0.00%
7	16.67%	75.00%	8.33%	0.00%
8	34.38%	61.46%	3.13%	1.04%
9	16.67%	77.08%	5.21%	1.04%
10	60.42%	21.88%	16.67%	1.04%
11	62.50%	30.21%	5.21%	2.08%
12	9.38%	75.00%	15.63%	0.00%
13	10.42%	76.04%	13.54%	0.00%
14	6.25%	41.67%	51.04%	1.04%
15	17.71%	46.88%	33.33%	2.08%
16	48.96%	51.04%	0.00%	0.00%
17	31.25%	61.46%	7.29%	0.00%
18	16.67%	79.17%	1.04%	3.13%
19	8.33%	54.17%	37.50%	0.00%

### 3.6.7 中国人学習者の調査結果（場面 C）

中国人日本語学習者の結果（場面 C）を表 12 に示す。

まず、場面 C における質問で最も多く選択された語種は、和語が 36.84%（7）、漢語が 47.37%（9）、外来語が 15.79%（3）であった。すなわち、初対面の指導教員と話す時には、漢語、和語、外来語という順で使い分けられている。

表 12 中国人大学生が初対面の指導教員と話す時、使い分けの調査結果

場面 C	和語	漢語	外来語	分からない
1	10.42%	53.13%	31.25%	5.21%
2	17.71%	52.08%	29.17%	1.04%
3	33.33%	45.83%	20.83%	0.00%
4	53.13%	37.50%	7.29%	2.08%

5	44.79%	35.42%	18.75%	1.04%
6	48.96%	41.67%	9.38%	0.00%
7	23.96%	68.75%	7.29%	0.00%
8	59.38%	34.38%	6.25%	0.00%
9	23.96%	66.67%	9.38%	0.00%
10	63.54%	13.54%	21.88%	1.04%
11	72.92%	15.63%	9.38%	2.08%
12	19.79%	63.54%	15.63%	1.04%
13	19.79%	64.58%	15.63%	0.00%
14	8.33%	25.00%	66.67%	0.00%
15	23.96%	17.71%	58.33%	0.00%
16	64.58%	32.29%	3.13%	0.00%
17	41.67%	50.00%	7.29%	1.04%
18	13.54%	80.21%	6.25%	0.00%
19	12.50%	37.50%	47.92%	2.08%

### 3.6.8 中国人学習者の調査結果

これらの調査結果は、中国人日本語学習者がどの場面でも漢語を多用するという先行研究と一致する。特に大勢の人の前で話す場合は、ほとんどの語彙で漢語を選んでおり、公的場面では、たとえ漢語を使う習慣がある日本人でも「かたすぎる」印象を与える可能性がある。

しかし、中国人日本語学習者が漢語のみに頼って、場面による使い分けを行っていないわけではない。友達同士の場面では、漢語の選択が減少し、外来語の使用率は高まり、初対面の教師に対しては和語の使用が増える。いずれも聞き手の属性を考慮して語種の選択が行われていると考えられる。

### 3.7 本章のまとめ

本章では、日本人母語話者と中国人日本語学習者に対する語種の使い分けに関する調査の概要、語彙の選定、使用場面の設定、調査票、調査対象と調査結果について考察した。調査結果は、1.3 で提示した先行研究に基づく仮説を裏付けるものであったが、中国人日本語学習者も場面による語種の使い分けを行っており、聞き手を考慮していることが示唆された。

#### 第四章 調査結果の分析

本章では、第三章の 3.6 調査の結果をさらに詳細に分析し、日本人母語話者と中国人日本語学習者の使い分けの違いとその原因を明らかにする。

##### 4.1 日本人大学生と中国人日本語学習者の全体的な傾向の対比

図 3、図 4、図 5 は、場面により、日本人大学生と中国人大学生の類義語間の語種に関する全体の使用傾向をまとめたものである。

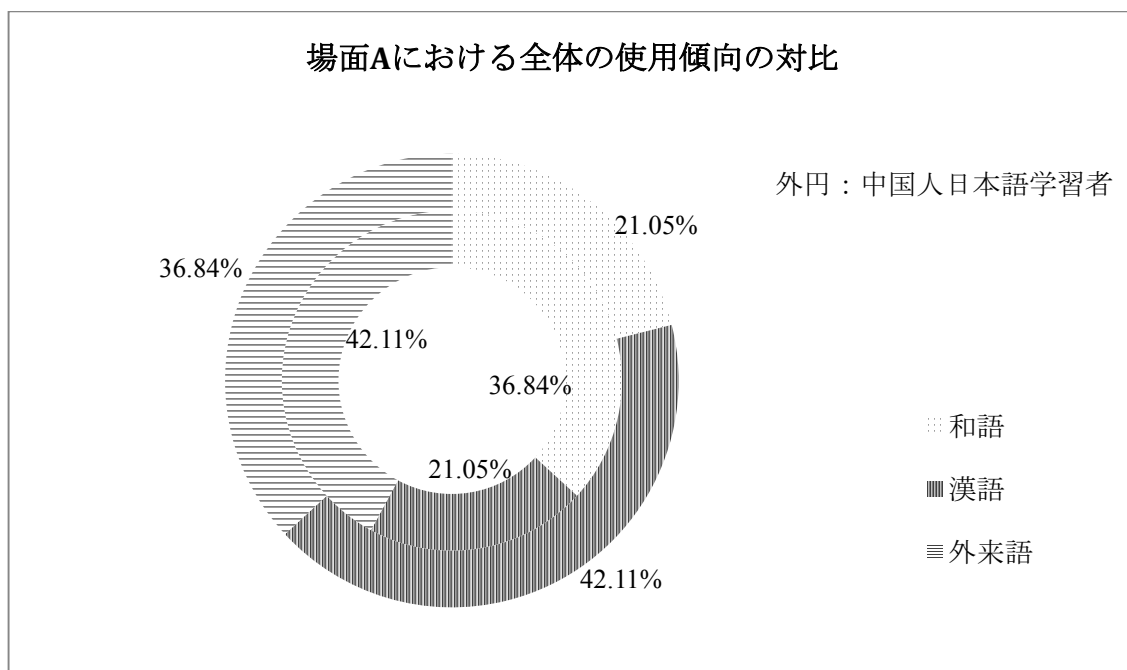


図 3 場面 A における全体の使用傾向の対比

まず、図 3 が示すように、場面 A では、日本人大学生と中国人大学生の使用傾向が全く異なっている。日本人大学生は、友達同士と話す時に、外来語を多用し、漢語を比較的使わない傾向がある。一方、中国人日本語学習者は漢語を選ぶことが多いが、外来語、和語も比較的選んでいる。



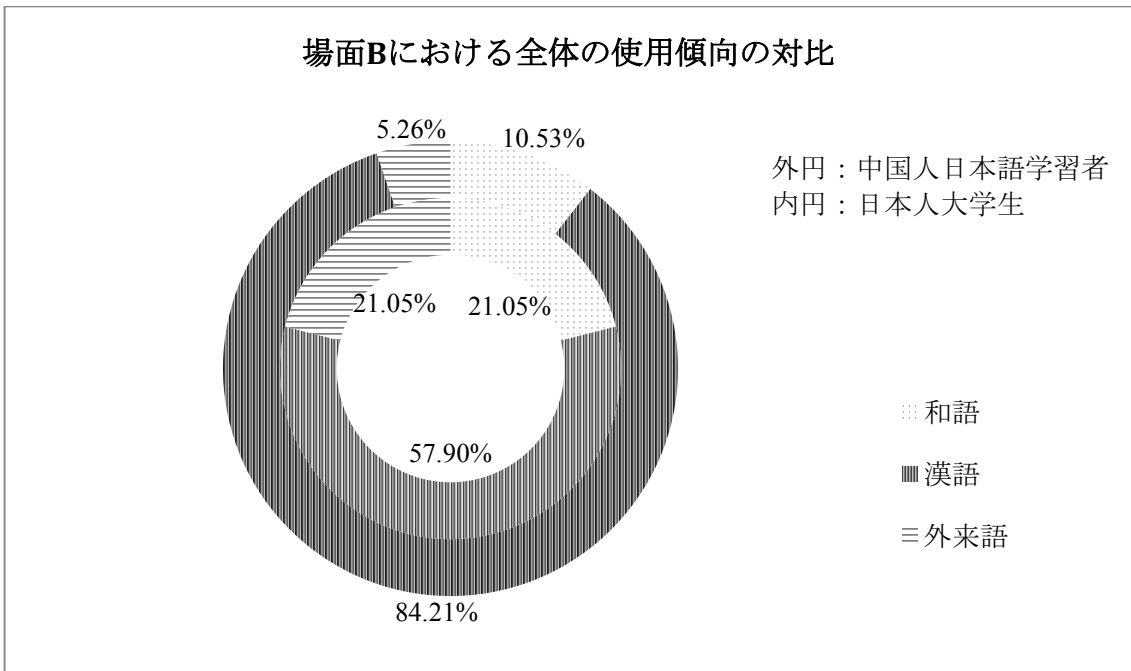


図 4 場面 B における全体の使用傾向の対比

図 4 から場面 B では、両者の傾向が似ている。つまり、日本人大学生も中国人日本語学習者も、大勢の人の前で話す場合は漢語を選ぶことが多い。

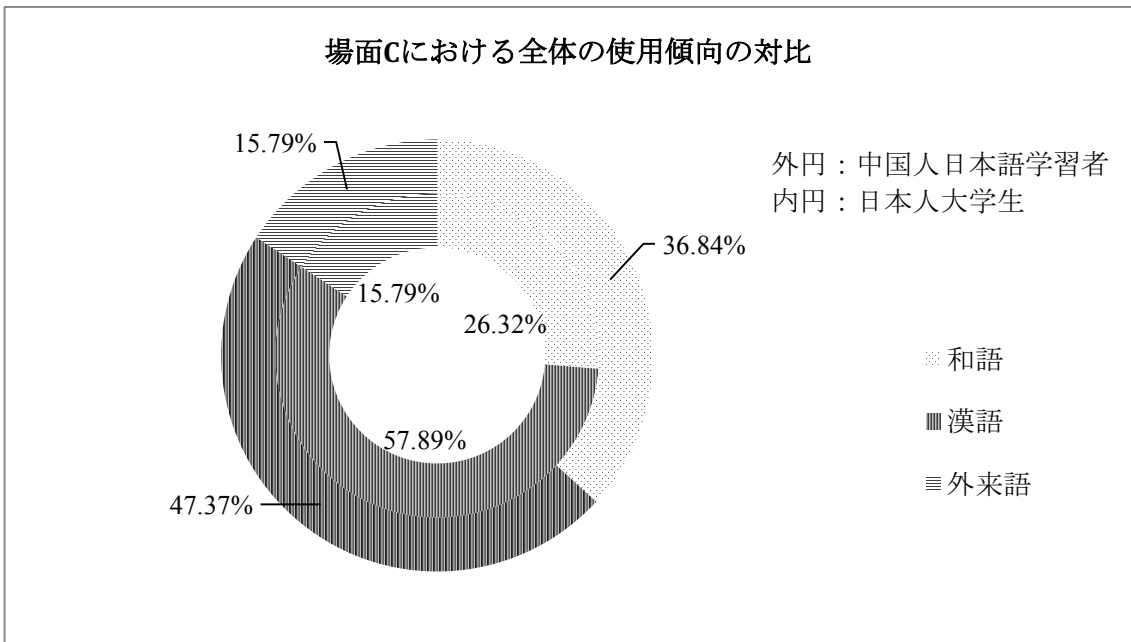


図 5 場面 C における全体の使用傾向の対比

図 5 から場面 C でも、両者は同じ傾向にあり、初対面の指導教員と話す時、外来語の使用を避け、漢語と和語を選択していることがわかる。

場面 B と場面 C とではほぼ同じ傾向が見られた結果が出たため、場面 B（大勢の人の前で話す）は公的場面であり、場面 C（初対面の指導教員と話す）も学校領域における正式な場面だと理解されたためと考えられる。中国人日本語学習者の和語選択が高いのは、聞き手が日本人の指導教員であることを意識したためである。

これらの結果は、中国人日本語学習者は場面や聞き手の違いを考慮しないという仮説と異なる。では、両者の語種の使い分けはどこまで一致するだろうか、コレスポネン分析を使用しているよりわかりやすい分析を行う。

#### 4.2 コレスポネン分析による対比

図 6 は、日本人母語話者と中国人日本語学習者の行った語種の選択に Aa から Gt の記号を割り振り、コレスポネン分析によって表示した散布図である。図中の左上から右下に行くにつれて、大きく二つのグループに分けられる。さらに細かく見ると、図の右上（第 1 象限）に日本語母語話者がグループ（第 1 グループ）と図の左下（第 3 象限）に中国人日本語学習者がグループ（第 2 グループ）を形成している。また、右下（第 4 象限）には 6 人（第 3 グループ）が位置している。

図 6 から得られた各グループに特徴のを見ると、まず、第 1 グループは日本語学生を中心とするもので、場面により、その使用傾向が異なる。次に、第 2 グループは主に中国人日本語学習者によって構成され、学習者の使用傾向が集中している。第 3 グループには、6 人（中国人学習者 5 人と日本人大学生 1 人）がいる。この 6 人の回答を詳しくみると、場面内の選択における基準がなく、雑然としている。そのため、これは個人差か記入ミスによると考えられる。

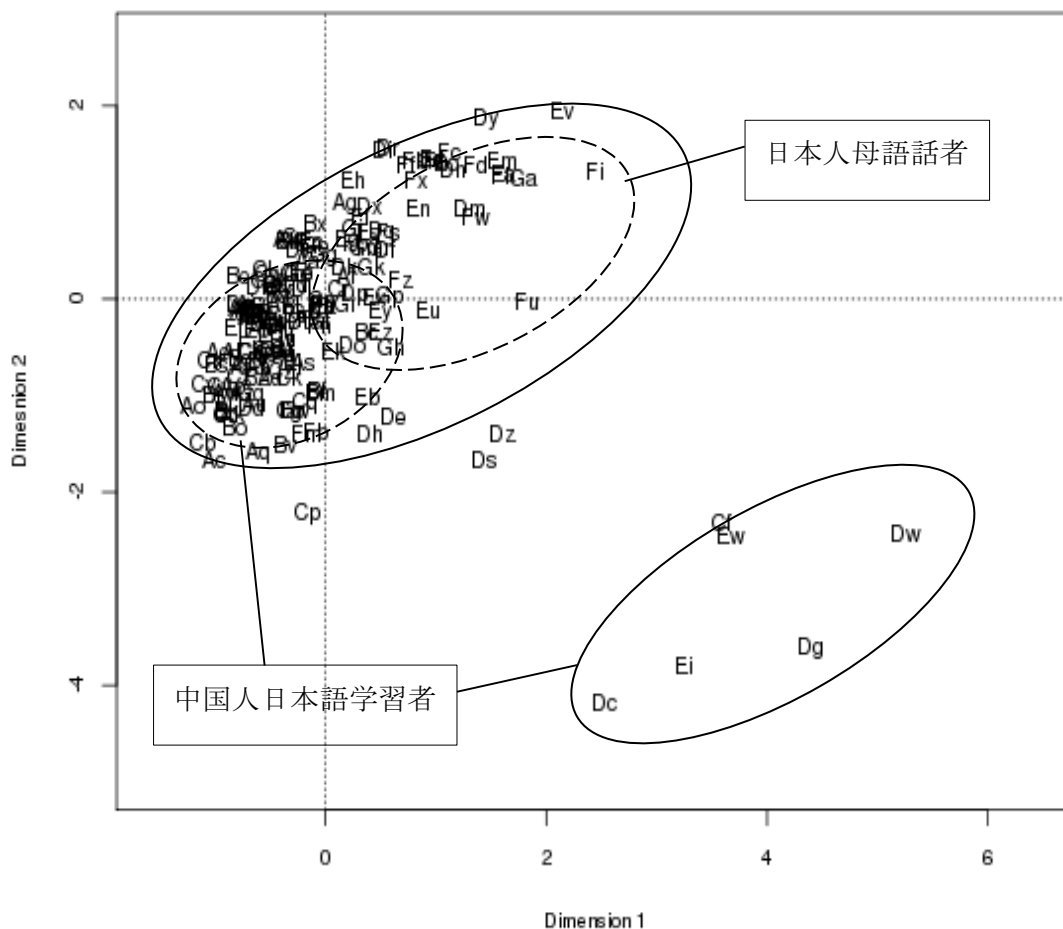


図 6 コレスポンド分析による散布図

コレスポンド分析（図 6）を用い、日中大学生間の使用傾向を分析すると、全体的に両者は似ているが、中国人日本語学習者の使用傾向は日本人大学生より、集中しているのに対し、日本人大学生は場面によってより細やかに使い分けしていることがわかる。中国人日本語学習者は漢字を多用しすぎるために、語種の使い分けをしていないかのような印象を与えている。

#### 4.3 各質問の対比

中国人日本語学習者は場面による語種の使い分けを行っているが、母語の影響から漢語を多用しがちである。これに対して、日本人母語話者はより細やかに使い分けている。

例えば、問 7 と問 8 では、両者は同じく「水泳」と「旅行」を選択するが、問 2 で

は、日本人母語話者が場面に応じて、「危険」と「リスク」を使い分けるのに対して、中国人日本語学習者はどの場面でも漢語の選択率が高い。

また、日本人母語話者は、場面だけでなく、語の結びつきを語種の使い分けに反映させている。問6は「踊り・舞踊・ダンス」の選択肢の前の語は「日本」になっているため、日本人母語話者は場面に関係なく、「舞踊」を選んだが、表13に示すように中国人日本語学習者は場面ごとに語種を選んでいる。

表13 「踊り・舞踊・ダンス」の使用結果

問6	場面A	場面B	場面C
日本人 大学生	漢語 (92.50%)	漢語 (96.25%)	漢語 (95.00%)
	↓	↓	↓
	和語 (6.25%)	和語 (3.75%)	和語 (3.75%)
	↓	↓	↓
	外来語 (0.00%)	外来語 (0.00%)	外来語 (1.25%)
中国人 大学生	和語 (54.17%)	漢語 (57.29%)	和語 (48.96%)
	↓	↓	↓
	外来語 (30.21%)	和語 (32.29%)	漢語 (41.67%)
	↓	↓	↓
	漢語 (15.63%)	外来語 (10.42%)	外来語 (9.38%)

#### 4.4 日本人大学生の使い分けの原因

日本人大学生が語種を使い分けている理由について、3.6.1～3.6.3の結果を通じて、この節では、グローバル化（英語化）の影響による外来語の多用や、各語種の特徴と年齢による選択の相違という視点から分析する。

##### 4.4.1 グローバル化（英語化）の影響

日本人大学生の調査結果（特に表7）から、若者同士で話す場合には外来語を多用することが明らかになったが、これは現代のグローバル化を反映しているのだろうか。日

本人は、「日本人の生活様式や思考様式に合わせて外来語を取り入れている」(丸山 1978, p.120) 傾向にあるから、グローバル化の進展する現代社会において、国際語として英語が使用されているため、若者は英語起源の外来語を多く使用する傾向にあると考えられる。この一方で、外来語の氾濫や濫用が日本語を乱しているという問題もある。しかしこのような外来語に対する批判的な観点は確実にあるものの、必ずしもすべてを悲観的には捉える必要はなく、外来語を能動的に捉える見方もある。外来語は「日本語を乱す『外来種』としてことさら排除するのではなく、日本人の考え方、日本の社会、日本の文化をうつすかがみとみなして活用するという考え方である。外来語が国際理解を邪魔する面も確かにあることは事実ではあるが、英語とずれることが多いことを踏まえた上で、日本文化を理解する手がかりとして国際理解に役立てようというのである。」(松浦 2006, p.110)

要するに、グローバル化（英語化）の進展に伴う外来語の使用は社会現象であり、日本語において欠かせない部分でもある。外来語も日本語の変化の中では必要なプロセスの一部なのである。

#### 4.4.2 各語種の特徴と年齢による選択

日本人大学生は場面によって語種の使い分けを行っているが、これは学生が各語種に関して異なるイメージを持っているためでもある。各語種の特徴とイメージについて、1.4 と 1.5 で述べたが、全体的な調査結果から見ると、和語はやわらかくて一般的なイメージがあるため、私的場面も公的場面でも普通に使用している。漢語は「大勢の人の前で話す場面」のような、公的な場で使われているのに対し、外来語は日常生活でよく使われている。しかし、外来語の使用について、若い世代は外来語をより使いやすいため、調査結果に見るように若者同士では外来語を最も使用し、大勢の人の前で話す場合と初対面の指導教員と話し合う場面では、外来語の使用を回避している。

#### 4.5 中国人日本語学習者の使い分けの原因

中国人日本語学習者は日本人大学生よりそれほど明確に語種を使い分けておらず、特に場面に関わらず漢語を多用するものの、場面により多少使い分けていることもある。3.6.5～3.6.7の結果を通じて、この節では、学習環境の影響、とりわけ教材における語種の扱い、日本語能力試験から見た語彙学習の広さ（習得順序）の影響という視点から分析する。

##### 4.5.1 教材における語種の扱い

中国の高等教育段階での日本語教材に関する研究に鮑（2011）や曹（2008, 2011）等があり、この節では彼らが考察する代表的な教科書を二冊取り上げる。一つは、上海外国語教育出版社の『新編日本語』（2016）であり、もう一つは北京大学出版社の『総合日本語』（2012）である。本論文の調査対象が所属している大学の中でも、中央民族大学と外交学院、福州大学は『総合日本語』を教科書として使用している。

そこで、19組57語の語彙がこの二つの教材で取り上げられるかを確認したところ（付録2）、『新編日本語』では和語12語、漢語9語、外来語5語、合計26語（57語の45.61%を占める）が語彙リストで取り上げられていたが、和語・漢語・外来語が同時に取り上げられる例はなかった。一方、『総合日本語』は、和語12語、漢語9語、外来語10語、合計31語（57語の54.39%を占める）を取り上げており、和語・漢語・外来語が同時に取り上げられた語彙は2組（「踊り・舞踊・ダンス」「本・書籍・ブック」）あった。このことから、『総合日本語』は『新編日本語』より外来語を多く取り上げていることがわかった。

次に、テキストやコラムなどの語種に関する解説の有無も確認した。その結果、『新編日本語』では以下のように、コラムではローマ字表記、漢字の読み方や日中漢字の違いなどに関する紹介があったが、語種の使い分けについては、詳しく言及していない。

『新編日本語』における語彙に関する紹介：

①ローマ字表記について

罗马字拼音 : 罗马字拼音即每个假名用拉丁字母拼写。日语的这种书写方法常用于商标, 日本人名, 地名等。如 : FUJI 富士、TOYOTA 豊田。

「ローマ字表記 : ローマ字表記、すなわち、一つ一つの仮名はローマ字で書く。この表記はブランド、日本人名、地名などに使われる。例えば、FUJI 富士、TOYOTA 豊田」(拙訳)

(『新編日本語』第一冊, p.168)

②漢字の読み方について

音读 : 日语的读音大致可分为吴音、汉音、唐音 (又称 [宋音]) 三种。吴音 (呉音) 最早传入日本, 是模仿中国长江下游等南方地区的发音。汉音 (漢音) 大约在中国的隋唐时期传入日本, 是模仿中国北方地区及当时长江一带的发音。唐音 (唐音) 在中国宋代以后传入的, 是模仿中国江南地区的发音。例如 :

字列	呉音 ごおん	漢音 かんおん	唐音 とうおん
行	行政 ギョウセイ	行動 コウドウ	行脚 アンギヤ
明	明日 ミョウニチ	明治 メイジ	明朝 ミンちょう

「読み方 : 日本語の漢字の読み方は呉音、漢音と唐音 (宋音ともいう) に3種類分けられている。呉音は、最も古い時代に日本に入った漢字音であり、中国長江下游地区など南方地区の音とされた。漢音は、遣唐使などによって持ち込まれ、中国北方地区および同時の長江一带の発音を真似したものである。唐音は中国の宋代時期以降、中国江南地区から入った音である。」(拙訳)

(『新編日本語』第二冊, p.427~p.428)

### ③日中漢字の違いについて

「日中漢字の違いに注意しましょう」

日：悪 圧 囲 隠 営 塩 汚 応 画 灰

中：恶 压 围 隐 营 盐 污 应 画 灰

(『新編日本語』第三冊, p.328)

「漢字の難しい読み方を習おう」

硫黄 (いおう) 意気地 (いくじ) 浮気 (うわき) 笑顔 (えがお) 叔父 (おじ)

(『新編日本語』第三冊, p.424)

一方、『総合日本語』では、語彙の歴史に関して「派遣使」(第一冊：第6課, p.93)、「日本語の常用漢字」(第一冊：第9課, p.116)、「和製英語」(第一冊：第13課, p.277)、「日本語の文字」(漢字・平仮名：第三冊第8課, p.242、片仮名・ローマ字・数字と区切り記号：第三冊第8課, p.270)などが紹介され、「語種」(第一冊：第9課, p.164)についても以下のように説明されている。

「漢語からの外来語」

「日本語の語彙は言葉の出自によって4種類に分けられる：「和語」、「漢語」、「外来語」と「混種語」である。そのうち、「漢語」は「漢字で表す音読みの語彙」を指す。大部分は古代の漢語から入った語であるが、ある部分は近代から日本人が作ったものである。しかし、「ギョーザ (餃子)」「ラーメン (拉麺)」「ワンタン (雲吞・餛飩)」「マージャン (麻雀)」「ヤムチャ (飲茶)」のような言葉は漢字で書けるし、もともと漢語から入ってきた語であるが、その読み方は「音読み」ではなく、単純に漢語の発音を真似ることから、漢語に含めず、外来語とされ、カタカナで表現する。」(拙訳)

(『総合日本語』第一冊第9課, p.164)



また、『総合日本語』では、コラムだけでなく、第三冊の第9課テキスト本文が特に外来語を話題としている。その内、ユニット1（会話）のテーマは「外来語は制限すべきか」であり、ユニット2（読解）のテーマは「外来語の増加は是か非か」であるというように紹介されている。

この二つの教科書について、鮑（2011）は、北京大学外国語学院編の『総合日本語』が日本語教育の文法体系を使用しており、上海外国語大学編の『新編日本語』が学校文法の文法体系を使用していると指摘する。「日本語教育の現場においては、日本の国語教科書で学習するいわゆる『学校文法』は採用されていない」（p. 9）と府川（2014）は述べており、つまり「学校文法」は形式的な整合性を持っているが、国際標準の文法として日本語教育で使われる文法用語やその規則と異なっていると指摘している。そのため、『総合日本語』は日本語の語彙や語種に関する内容を多く扱うのである。とはいえ、『総合日本語』では語種を多く取り上げているにもかかわらず、中国人日本語学習者が漢語を多用するという結果からみると、学習者は十分な日本語運用能力を持つに至っていない。

#### 4.5.2 日本語能力試験から見た語彙学習の広さ（習得順序の影響）

中国人日本語学習者の調査結果（表10、表11、表12）から見ると、例えば、1番の漢語の「商売」と外来語の「ビジネス」に比べ、和語の「商い」はどの場面でも最も使い難いことがわかる。このような現象について、中国人日本語学習者がある語彙を選択していない原因には、その語彙を使用しないということより、わからない、知らない、あるいは習得していないのではないかと推測される。そこで、日本語能力試験1級の合格者に対して、19組の語彙に関する習得順序、もしくは習得の有無を確認する。ここでは、国際交流基金と日本国際教育支援協会が編集した『日本語能力試験・出題基準 改訂版』（2007）を参考にしながら、4級から1級まで含まれる語群を分析する。表15は19組の語彙は「日本語能力試験出題基準 改訂版」（2007）におけるレベルを表すものである。（）内の数字は級を表す。

表 15 19 組の語彙は『日本語能力試験・出題基準 改訂版』(2007)におけるレベル

番号	和語	漢語	外来語
1	商い	商売 (2)	ビジネス (1)
2	危うさ	危険 (3)	リスク
3	過ち (2)	過失 (2)	ミス (2)
4	色 (4)	色彩 (1)	カラー (2)
5	手入れ (2)	介護 (1)	ケア
6	踊り (3)	舞踊	ダンス (2)
7	泳ぎ (泳ぐ:4)	水泳 (3)	スイミング
8	幸せ (2)	幸福 (2)	ハッピー
9	旅 (2)	旅行 (4)	トラベル
10	台所 (4)	厨房	キッチン
11	手紙 (4)	書簡	レター
12	手助け	支援	サポート
13	取り消し (取り消す:2)	解約	キャンセル
14	長屋	集合住宅 (集合:2 住宅:2)	アパート (2)
15	速さ (速い:4)	速度 (2)	スピード (2)
16	本 (4)	書籍 (2)	ブック
17	店 (4)	商店 (2)	ショップ (2)
18	めし (2)	ご飯 (4)	ライス (1)
19	宿屋 (宿:2 屋:2)	旅館	ホテル (4)

中国人日本語学習者の調査結果から、「商い、危うさ、トラベル、キッチン、書簡・レター、長屋、ブック」は他の語彙と比べ、選ばれにくいことが判明した。

また、表 15 と和語と漢語の結果 (表 10、表 11、表 12) を照らし合わせると、和語と漢語のどちらも『日本語能力試験・出題基準 改訂版』(2007) で取り上げられてない場合では、和語より漢語の方が選ばれることがわかった。具体例として、12 番の「支援」が「手助け」より多く、13 番の「取り消し」より「解約」が多く選択されている。

また、和語と漢語のいずれかが取り上げられる場合、取り上げられている語彙が取り上げられていない語彙よりも選ばれやすい。例えば、1 番の「商売」（2 級）は「商い」より使いやすく、2 番の「危険」（3 級）は「危うさ」より、10 番の「台所」（4 級）は「厨房」より、11 番の「手紙」（4 級）は「書簡」より、使いやすい。このような事情をみると、学習者がこれらの語彙を使わないというより、その語彙を知らないために選んでいないと考えられる。

## 第五章 結論

### 5.1 まとめ

本研究では、日本人大学生と中国人日本語学習者の比較を中心にし、類義語間の語種の使い分けについて考察した。考察は以下のようにまとめられる。

全体的に、日本人大学生は場面によって語彙を使い分けていることが判明した。すなわち、友達同士では、外来語、和語、漢語の順に、公的な場面では漢語、和語、外来語の順に語彙を使い分けている。一方で、中国人日本語学習者は場面に関わらず、漢語を選ぶ傾向にある。日本人母語話者は細かく語種を使い分けるのに対し、中国人日本語学習者の使い分けは大まかになりやすい。

場面による語種の特徴について、日本人大学生は漢語を公的な場でよく使い、一般的に、外来語を日常会話、特に若者同士の場で使用する。一方で、中国人日本語学習者は漢語の使用が日本人大学生と似ており、公的場面でもよく使う。しかし、外来語は公的場面より私的な場で使われるが、友達場面では漢語の次に使いやすい。

また、日本人大学生と中国人日本語学習者の使用傾向について、日本人大学生は、グローバル化の進展に伴い、英語由来の外来語の使用を好むのに対し、中国人日本語学習者は、母語の影響と学習環境の影響から漢語を使うことを好む。また日本語教科書における語種に関する記述が不十分であるために、漢語の使用が多いことも判明した。

### 5.2 教育的示唆

本研究では「場面の違い」による語種を選択を扱い、語種の使い分けの原因についての分析を通じて、中国人日本語学習者の使用傾向を検討し、日本人母語話者の使用傾向との相違点が判明した。

より良いコミュニケーションをとるためには、中国人日本語学習者は規範的な音や文法および語彙の使用をある程度に目指す必要になる。本研究の結果から見ても、類義語の語種の特徴と用法を理解し、意識的に使い分ける力を身に付けるように工夫をこらす必要もある。この点では、日本人大学生の使用傾向を把握することより、「和語・漢語・外来語」の使い分けを学習にある程度反映させることが望ましい。学習者に「相手や場

面に応じて使い分ける」能力をつけさせるため、自然な日本語に触れる機会が限定されている日本語学習の環境においては、教師と日本語教科書がより重要な役割を持つ。

坂口（2014）によれば、日本語教師は、類義関係にある複数の語彙について、それらの弁別的な特徴を正確かつ明確に説明し、学習者の理解を促すべきである。日本語教育の現場で、日本語教師が語種の使い分けに関してよく説明し、学習者に語種の使い分けを意識させる必要があるだろう。例えば、「ハッピー」の扱いについて、公的場面では「ハッピー」を使わず、その代わりに「幸せ」や「幸福」を使うことを明確に学習者に伝えるように教え、場面ごとの詳しい補足を行う必要があるだろう。語種における漢語の使用に関して、中国語と日本語が同文であると説明したり、逆に日本語の漢語との違いを強調すればするほど、学習者は漢語を意識しすぎてしまう。また、語彙の使用場面だけでなく、語彙同士のつながりやコロケーション、語彙の持つ文化的な背景も学習者に意識させるようにする必要がある。

次に日本語教材について、曹（2011）が指摘するように、『総合日本語』という教材だけではなく、「聞く、話す、書く」の多科目に使用する教材のシリーズ化によって、「科目間の連携と相乗的学習効果を図り、総合的な日本語能力の養成をめざす。」(p.255)ことが重要である。さらに、教材だけでなく、川崎（2011）が指摘するように、語彙の一語一語と向き合う時、中国人日本語学習者に向け、使用に迷った時に使えるコロケーション例を網羅した類義語間の語種の教材あるいは辞書を作り上げるということも必要となる。

一方で、日本語学習者の言語使用に対する日本人母語話者の態度が重要であるため、日本人母語話者に向けて日本語学習者の使用傾向を理解させる必要になるだろう。つまり、中国人日本語学習者は漢語の多用というような選択傾向があることが分かっているから、より良い異文化コミュニケーションをとることができるだろう。したがって、日本語教育だけではなく、日本の学校教育、日本人向けにも示唆がある。

以上のことから、日本人の側からも中国人学習者の側からも、相互に歩み寄り、互いの言語的違いを認め、良好なコミュニケーションを形成する一助となることを期待する。

### 5.3 今後の課題

本研究では、次の点について言及することができなかった。

まず、外来語の意味のずれに関する問題点について考察することができなかった。飛田・佐藤（2002）によると、外来語は原語と必ずしも同じ意味を持たないことがある。また、意味は同じでも、その語の持つイメージが原語とは異なることがある。このような語を、その違いを知らずに日本語と同じような感覚で外国人に対して使った場合、意味を取り違えられたり、通じなかったりといった事態を引き起こす。意味も用法も重要だが、類義語特有の意味内容を無視せずに、それを明らかにする姿勢が必要である（坂口 2014）。本研究では場面による類義語間の語種の使用傾向に着目したが、今後、日本語母語話者と中国人日本語学習者が外来語に抱くイメージと語彙の意味内容の点からも検討することが重要だろう。

次に、川崎（2011）が、「語の意味を学習した結果として発せられる言葉が、『言いたいことはわかるが、どこがちぐはぐな表現』になってしまっていることは珍しくない。類義語であっても、入れ替えが不可能な表現が厳しく存在する。前後の語との結びつきや文脈の習得を無視しては、その語を使い直すことはできない」（p.75）と指摘したように、類義語間の語種使用を考察する際、文脈や語彙のコロケーションに関する考察も必要であり、多角的に言語の特徴を探る姿勢が求められる。

さらに、調査の複数回答、場面内の個人差、話し手と聞き手の関係（親密度）などについても検討する必要があるため、これらの点は今後の課題として残されている。多方面からの分析や、外来語の意味のずれに関する日本語教育の問題点については稿を改めて考察したい。

## 謝 辞

本論文の完成には多くの方々からご指導、ご協力、励ましのお言葉を賜りました。

まず、指導教員の西山教行先生に厚く感謝申し上げます。西山先生には二年間ご指導いただき、ゼミや授業を通じて多くの知識や示唆をいただきました。最初の修論構成から最後まで、平素から熱心にご指導をいただきました。西山先生からは学問的な教養のみならず、研究に対する姿勢をも教わり、人生のための大変貴重な指針となりました。

また、外国語教育論講座の先生の方々には大変お世話になり、感謝を申し上げます。金丸敏幸先生から本論文のデータ分析に対する統計学の有益なアドバイスをいただき、非常に丁寧かつ熱心にご指導いただきました。アドバイザーの高橋幸先生には、温かい助言と励ましをいただきました。

田地野彰先生、塚原信行先生、ティモシー・スチュワート先生、デビッド・ダルスキー先生、藤田糸子先生、マーク・ピーターソン先生の授業に出席し、大変勉強になりました。心から感謝を申し上げます。

それから、外国人研究員としての葛茜先生と外国語教育論講座の赤桐敦先輩には内容に関して様々な角度からアドバイスをいただき、アンケートの作成や論文の書き方まで貴重なご助言を沢山いただきました。そして、素直なご意見や温かいご支援をくださった講座のメンバーには厚く感謝の意を表します。ありがとうございます。

本調査にあたって、ご協力いただいた京都大学（日本）の大山万容先生、春木奈美子先生、黒川修司先生と京都大学の学生たち、および中央民族大学（中国）、北京師範大学（中国）、外交学院（中国）、福州大学（中国）の日本語学科の先生と学生たち、深く感謝いたします。

こうした皆様のお力添えがなければ本論文も完成に至りませんでした。改めて衷心より御礼申し上げます。

## 参考文献

### 日本語文献（アイウエオ順）

- 秋元美晴（2007）『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる語彙』 アルク
- 安部清哉・斎藤倫明・岡島昭浩・半沢幹一・伊藤雅光・前田富祺著 山口昭男発行（2009）  
『シリーズ日本語史 2 語彙史』 岩波書店
- 井上逸兵・土手康瑛・松永英美子[他] 内藤篤志・友成亮太・小西麻亜耶・寺西三希子  
（2006）「コミュニケーションの生態系--現代日本の若年層の言語使用を中心として」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』 36, pp.1-17.
- 石川正彦（2013）「日本語の攻防 語彙 和語・漢語・外来語 ―基本語彙に見る攻防―」『日本語学』 9月号 32 (11), pp.80-92.
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 編（2010）『言語研究のための統計入門』 くろしお出版
- 岩佐靖夫（2011）「日本語教育における類義語指導の一考察 ―系統的な指導原理へ向けての提言―」 『尚美学園大学総合政策研究紀要』 20, pp.17-24.
- 榎垣実（1958）『日本外来語の研究』 研究社
- 欧州評議会(2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ参照枠』 吉島茂、大橋理枝(訳、編) 朝日出版社
- 大槻美智子（2003）「語種と略語：補説」『大谷女子大学国文学会』 33, pp.78-65.
- 大谷加代子（2007）「美容用語に見る外来語の研究 1」『山野研究紀要 山野美容芸術短期大学』 15巻 pp.9-13
- 甲斐睦朗（2003）「外来語の現状とその解決のために 第9回」『文化庁月報』 1月号（通巻 424）
- 加納陸人（2011）「多文化共生と人間関係を紡ぐ日本語教育 ―中国大連市における第二外国語としての日本語教育―」 『文教大学文学部紀要』 24(2), pp.1-21.
- 河内昭浩（2016）「和語・漢語・外来語の指導」 『群馬大学教育学部紀要』 人文・社会科学編 65, pp.27-36.
- 許明子・金東奎・姚艶玲（2014）「中級レベルの日本語学習者のコミュニケーション能力の現状とニーズ：日本・中国・韓国の学習者を対象とした調査と実践を通して」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 29, pp.1-17.
- 金愛蘭（2006）「外来語「トラブル」の基本語化 ―20世紀後半の新聞記事における―」『日本語の研究』 2(2), pp.18-33.



- 金田一春彦 (1982) 『金田一春彦 日本語セミナー二 日本語のしくみ』 筑摩書店
- 郡千寿子 (2003) 「一人称代名詞の使用実態と使用意識について —弘前市の成人男女の場合—」 『弘前大学教育学部紀要』 90, pp.1-8.
- 国立国語研究所編集・発行 (1965) 松尾拾・西尾寅彌・田中章夫著 『国立国語研究所報告/04 語彙研究』 28 巻 秀英出版
- 国立国語研究所 (1984) 『日本語教育のための基本語彙調査 報告 78』 秀英出版
- 国立国語研究所 (1990) 『国立国語研究所報告 102 場面と場面意識』 三省堂
- 国立国語研究所編集・発行 (1990) 『外来語の形成とその教育 日本語教育指導参考書 16』
- 国立国語研究所編集・発行 (2004) 『外来語に関する意識調査 全国調査報告書』
- 国立国語研究所編集・発行 (2005) 『平成 16 年度 国語国立研究所全国調査報告書 外来語に関する意識調査 II (全国調査)』
- 国立国語研究所 (2006) 『外来語の言い換え提案』 ぎょうせい
- 国立国語研究所編集・発行 (2006) 『新「ことば」シリーズ 19 外来語と現代社会』
- 小森和子 (2012) 「漢語と和語の違いに関する中国人日本語教員の認識」 『明治大学国際日本学研究』 5(1), pp.19-38.
- 小森和子・三國純子・徐一平・近藤安月子 (2012) 「中国語を第一言語とする日本語学習者の漢語連語と和語連語の習得: 中国語と同じ共起語を用いる場合と用いない場合の比較」 『小出記念日本語教育研究会』 20, pp.49-60.
- 小森和子 (2014) 「日本語学習者の語彙知識の習得に及ぼす第一言語の影響 —中国語を第一言語とする日本語学習者の和語習得を通して—」 『明治大学国際日本学研究』 6(1), pp.91-115.
- 王伸子 (2011) 「中国語母語話者の日本語外来語彙習得に関する諸問題」 『専修人文論集』 (88), pp.1-15.
- 齊藤倫明編 (2002) 『朝倉日本語講座 4 語彙・意味』 朝倉書店
- 坂口和寛 (2014) 「日本語教師養成講座の受講者が行う類義語の言語特徴分析 —類義語の特徴説明に見られる傾向と問題点—」 『信州大学人文科学論集』 (1), pp.243-254.
- 坂本正・小柳かおる・長友和彦・畑佐由紀子・村上京子・森山新 編 (2008) 『多様化する言語習得とこれからの日本語教育』 スリーエーネットワーク
- 周慶玲 (2014) 「語種による類義語使用の特徴 —大学生に対する調査に基づいて—」 『静岡産業大学情報学部研究紀要』 16, pp.33-44.

- 陣内正敬 (2007) 『外来語の社会言語学 ―日本語のグローバルな考え方―』 世界思想社
- 陣内正敬 (2008) 「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育(言語教育)」『言語と文化 = 語言与文化』 11, pp.47-60.
- 陣内正敬・田中牧郎・相澤正夫 編 (2013) 『外来語研究の新展開』 3(3), 国立国語研究所, pp.197-199.
- 鈴木淳子 (2011) 『質問紙デザインの技法』 ナカニシヤ出版
- 鈴木真喜男・長尾勇 (2012) 『新編 日本語要説』 学芸図書
- 曹大峰 (2008) 「中国における日本語教科書作成 ―歩み・現状・課題―」 お茶の水女子大学日本言語文化学会 『言語文化と日本語教育』 35, pp.1-9.
- 曹大峰 (2011) 「内容と能力を重視した日本語教育へ向けて ―中国語母語話者向けの新しい日本語教材の開発研究事例―」 『日本語・日本語教育研究』 2 web 版
- 田中章夫 (1978) 『国語語彙論』 明治書院
- 田中祐輔 (2013) 「中国の大学専攻日本語教科書の現代史 ―国語志向と文学思想―」 早稲田大学日本語教育研究センター 『言語文化教育研究』 11, pp.70-94.
- 玉岡賀津雄 (1997) 「中国語と英語を母語とする日本語学習者の漢字および仮名表記語彙の処理方略」『言語文化研究』 17 (1), pp.65-77.
- 玉岡賀津雄・大和祐子 (2009) 「中国人日本語学習者の日本語漢字語の処理における母語の影響」 名古屋大学言語文化研究会 『ことばの科学』 22, pp.117-135.
- 張羽 (2014) 「日本語の語彙の特徴とその教育指導 ―中国人日本語学習者を対象にして 日语词汇的特征及其教育指导 ―以中国日语学习者为中心」 渤海大学外国语学院 2011 级 (修士論文)
- 津田田津子 (1993) 「日本語教育のための基本外来語について」 『奈良教育大学紀要』 42(1), pp.225-239.
- 飛田良文・佐藤武義 (2002) 『現代日本語講座第 4 巻 語彙』 明治書院
- 鳥飼玖美子 (2011) 『国際共通語としての英語』 講談社
- 西尾寅弥 (1979) 「同義語の選択についての調査」 『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』 29, pp.161-182.
- 日本語教師読本編集部編 (1993) 『日本語教育入門用語集』 アルク
- 野田尚史編 (2012) 『日本語教育のためのコミュニケーション研究』 くろしお出版
- 野村雅昭・山下喜代 (1993) 「日本語教育のための漢字・漢語データベース」 『講座 日本語教育』 28, pp.142-156.

- 野村雅昭・山下喜代（1998）「外国学生用日本語教科書『分野別用語集』の語彙」『講座日本語教育』33, pp.95-114.
- 羽吹幸・篠原亜紀（2014）「理工系大学院留学生の日本語使用に関する一調査」『国際交流基金日本語教育紀要』(10), pp.131-144.
- 林伸一（2011）「異文化の受容形態としての外来語・外国語の問題 ―表記と語種の観点から考える」山口大学人文学部異文化交流研究施設紀要論文『異文化研究』5, pp.57-70.
- 府川源一郎（2014）「提案2「国語教育」は、外国人児童生徒の教育、あるいは「日本語教育」から何を学ぶのか（外国人児童生徒と学ぶことで拓がることばの世界、春期学会 第126回 名古屋大会）」『国語科教育』76, pp.8-10.
- 文化庁（1979）『ことばシリーズ4 外来語』文化庁
- 文化庁文化部国語課 編（2003）『平成11年1月調査 国語に関する世論調査 ―敬語・漢字・外来語―』文化庁
- 文化庁文化部国語課 編（2004）『平成12年1月調査 国語に関する世論調査 ―言葉遣い・国際化時代の日本語―』文化庁
- 文化庁文化部国語課 編（2008）『平成19年 国語に関する世論調査 日本人の国語力と言葉遣い』ぎょうせい
- 彭飛（2003）『外国人を悩ませる日本語から見た日本語の特徴』凡人社
- 堀場裕紀江・小林ひとみ・松本順子・鈴木秀明（2008）「第2言語学習者の言語知識と読解における母語背景の影響」『神田外語大学大学院紀要』14, pp.27-48.
- 鮑頭陽（2011）「中国の主要大学日本語学部における日本語教科書の使用状況」『朝日大学一般教育紀要』37, pp.55-65
- 松浦明（2006）「カタカナ外来語研究」『語学教育研究論叢』23, pp.97-114.
- 松田勇一（2006）「外国人留学生が抱く大学生活に対する意識 ―平成17年度入学留学生への意識調査から―」『宇都宮共和大学論叢』7, pp.45-70.
- 丸山孝男（1978）「外来語の問題と英語教育」『明治大学教養論集』(113), pp.113-132.
- 森田良行（1977）「日本語の動詞について」『講座日本語教育』(13), pp.114-134.
- 宮本佳美（2004）「外来語「言い換え」提案に関する一考察」『四国学院大学 L & C : journal, comparative studies of language and culture 2』, pp.101-136.
- 么慧君（2011）「異文化から見る中日同形詞 異文化的角度看汉日同形词」山東師範大学日本語学（修士論文）

文慶詰 (2002) 「日本語・韓国語・中国語の漢語語彙について」 『総合政策論集 東北  
文化学園大学総合政策学部紀要』 2(1), pp.43-54.

矢崎源九郎 (1964) 『日本の外来語』 岩波新書

山西博之・杉田麻哉・中田達也・池田真生子・田中博晃・印南洋・住政二郎・植木美千  
子著 竹内理・水本篤 (編) (2014) 『外国語教育研究ハンドブッカー研究手法の  
より良い理解のためにー』 松柏社

李峰栄・板谷雄二 (2006) 「中国人向けカタカナ語 e ラーニング教材の開発と視覚的刺  
激の有効性の検証」 『朝日大学経営学部電子計算機室年報』 15, pp.51-58.

### 中国語文献 (拼音順)

艾昕・胡树 (2008) 「论母语在日语学习中的作用及其影响」 『内蒙古农业大学学报(社  
会科学版)』 (2008年01期) 文化欄目

周平、陳小芬編著 『新編日本語 修订本』 (2016) 上海外国語教育出版社

彭広陸総主編 (2004) 『総合日本語』 北京大学出版社

王芳艳 (2015) 「二语习得中母语迁移对日语词汇学习的影响」 渭南师范学院学报『外  
语教学研究』 30 (4), pp.67-74.

张慧书 (2016) 「二语习得中的汉语负迁移现象分析 :以日语中“汉语”词汇为例」 『江  
苏大学外国语学院语文学刊 (7)』 pp.32-36.

### ウェブサイト

「聞蔵 II」のホームページ : <http://database.asahi.com/index.shtml> (2016年09月02  
日まで検索)

## 付録

### 付録 1

#### 日本語教育における語種による類義語に関する調査

こんにちは。京都大学人間環境学研究科外国語教育講座の朱 美霖と申します。只今、修士論文のためのアンケート調査を行っております。このアンケートは学習者が語種（和語・漢語・外来語）による類義語の使用傾向を把握し、各使用場面の特徴を明らかにし、日本語教育現場での語種の指導に資することも目的とします。本調査で三つの場面（友達同士と話す・大勢の前で話す・初対面の指導教員と話す）に分けていますが、各場面内の内容（19 つの文）は全て同じです。場面によって当てはまるものを○で一つ選んでください。辞書やネットのご利用をご遠慮ください。

なお、ご回答いただきました皆様の個人情報や内容は論文のみ利用し、それ以外の目的で利用することは一切ございません。回答所要時間は 10 分程度になっております。ご質問やご意見等がございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。つきましては、お手数ですが、本調査の趣旨にご理解を賜り、是非ご協力下さいますようお願い申し上げます。

（連絡先：zhu.meilin.74m@st.kyoto-u.ac.jp）

性別：男・女

年齢：満 \_\_\_\_\_ 歳

国籍：\_\_\_\_\_

出身地：\_\_\_\_\_

英語能力：\_\_\_\_\_（TOFEL、TOEIC、大学英語 4・6 級などのスコアがございましたら、点数までご記入お願い致します。）

【日本留学経験の有無：有・無（有の方へ 期間：\_\_\_\_\_）】

友達同士で話す時、次のどの言葉を使いますか。当てはまるものを○で一つ選んでください。

1. （商い・商売・ビジネス・分からない）を始めるにあたって、乗り越えなければならない壁があります。

2. 自転車事故の（危うさ・危険・リスク・分からない）に備えて、保険に加入しておくことはとても大切です。
3. 学校側に（過ち・過失・ミス・分からない）が認められるものについて、詳しく説明を行っています。
4. （色・色彩・カラー・分からない）に対するイメージは、文化、国家を超えて世界共通です。
5. このサービスの中にはお庭の（お手入れ・介護・ケア・分からない）や水まきというサービスは含まれていません。
6. 日本（踊り・舞踊・ダンス・分からない）を習っているので着物の女性が多い。
7. どの子にも（泳ぎ・水泳・スイミング・分からない）を楽しめるようになってほしいです。
8. （幸せ・幸福・ハッピー・分からない）を感じるポイントは人それぞれ違います。
9. この雑誌は会話例を多数掲載した（旅・旅行・トラベル・分からない）言語フレーズ集です。
10. 自宅には月2回、帰る。帰らない週末は、部屋の（台所・厨房・キッチン・分からない）で自炊するようになった。
11. （手紙・書簡・レター・分からない）の文体に、それぞれの個性が生まれていった。
12. 新しく農業を始めるには、地域の（手助け・支援・サポート・分からない）が必要です。
13. （取り消す・解約する・キャンセルする・分からない）時に発生する料金を教えてください。
14. （長屋・集合住宅・アパート・分からない）とは、一棟の建物を数戸の住居に区切ったものです。
15. 読む（速さ・速度・スピード・分からない）を上げる三つの方法とは何ですか？
16. 好みの多様化にともない、（本・書籍・ブック・分からない）や雑誌の種類が増え、売り場面積の小さな店では対応できなくなった。
17. これは（店・商店・ショップ・分からない）一覧のページです。
18. 昨日、飲食店でおかずと一緒に（めし・ご飯・ライス・分からない）を食べました。

19. ゼミ合宿するには、(宿屋・旅館・ホテル・分からない) を選ぶ幹事が多い。

大勢の人の前で話す時、次のどの言葉を使いますか。当てはまるものを○で一つ選んでください。

- 1、 (商い・商売・ビジネス・分からない) を始めるにあたって、乗り越えなければならぬ壁があります。
- 2、 自転車事故の (危うさ・危険・リスク・分からない) に備えて、保険に加入しておくことはとても大切です。
- 3、 学校側に (過ち・過失・ミス・分からない) が認められるものについて、詳しく説明を行っています。
- 4、 (色・色彩・カラー・分からない) に対するイメージは、文化、国家を超えて世界共通です。
- 5、 このサービスの中にはお庭の (お手入れ・介護・ケア・分からない) や水まきというサービスは含まれていません。
- 6、 日本 (踊り・舞踊・ダンス・分からない) を習っているので着物の女性が多い。
- 7、 どの子にも (泳ぎ・水泳・スイミング・分からない) を楽しめるようになってほしいです。
- 8、 (幸せ・幸福・ハッピー・分からない) を感じるポイントは人それぞれ違います。
- 9、 この雑誌は会話例を多数掲載した (旅・旅行・トラベル・分からない) 言語フレーズ集です。
- 10、 自宅には月2回、帰る。帰らない週末は、部屋の (台所・厨房・キッチン・分からない) で自炊するようになった。
- 11、 (手紙・書簡・レター・分からない) の文体に、それぞれの個性が生まれていた。
- 12、 新しく農業を始めるには、地域の (手助け・支援・サポート・分からない) が必要です。
- 13、 (取り消す・解約する・キャンセルする・分からない) 時に発生する料金を教えてください。

- 14、 (長屋・集合住宅・アパート・分からない) とは、一棟の建物を数戸の住居に区切ったものです。
- 15、 読む(速さ・速度・スピード・分からない) を上げる三つの方法とは何ですか？
- 16、 好みの多様化にともない、(本・書籍・ブック・分からない) や雑誌の種類が増え、売り場面積の小さな店では対応できなくなった。
- 17、 これは(店・商店・ショップ・分からない) 一覧のページです。
- 18、 昨日、飲食店でおかずと一緒に(めし・ご飯・ライス・分からない) を食べました。
- 19、 ゼミ合宿するには、(宿屋・旅館・ホテル・分からない) を選ぶ幹事が多い。

初対面の指導教員と話す時、次のどの言葉を使いますか。当てはまるものを○で一つ選んでください。

- 1、 (商い・商売・ビジネス・分からない) を始めるにあたって、乗り越えなければならない壁があります。
- 2、 自転車事故の(危うさ・危険・リスク・分からない) に備えて、保険に加入しておくことはとても大切です。
- 3、 学校側に(過ち・過失・ミス・分からない) が認められるものについて、詳しく説明を行っています。
- 4、 (色・色彩・カラー・分からない) に対するイメージは、文化、国家を超えて世界共通です。
- 5、 このサービスの中にはお庭の(お手入れ・介護・ケア・分からない) や水まきというサービスは含まれていません。
- 6、 日本(踊り・舞踊・ダンス・分からない) を習っているので着物の女性が多い。
- 7、 どの子にも(泳ぎ・水泳・スイミング・分からない) を楽しめるようになってほしいです。
- 8、 (幸せ・幸福・ハッピー・分からない) を感じるポイントは人それぞれ違います。
- 9、 この雑誌は会話例を多数掲載した(旅・旅行・トラベル・分からない) 言語フレーズ集です。



- 10、 自宅には月2回、帰る。帰らない週末は、部屋の（台所・厨房・キッチン・分からない）で自炊するようになった。
- 11、 （手紙・書簡・レター・分からない）の文体に、それぞれの個性が生まれていた。
- 12、 新しく農業を始めるには、地域の（手助け・支援・サポート・分からない）が必要です。
- 13、 （取り消す・解約する・キャンセルする・分からない）時に発生する料金を教えてください。
- 14、 （長屋・集合住宅・アパート・分からない）とは、一棟の建物を数戸の住居に区切ったものです。
- 15、 読む（速さ・速度・スピード・分からない）を上げる三つの方法とは何ですか？
- 16、 好みの多様化にともない、（本・書籍・ブック・分からない）や雑誌の種類が増え、売り場面積の小さな店では対応できなくなった。
- 17、 これは（店・商店・ショップ・分からない）一覧のページです。
- 18、 昨日、飲食店でおかずと一緒に（めし・ご飯・ライス・分からない）を食べました。
- 19、 ゼミ合宿するには、（宿屋・旅館・ホテル・分からない）を選ぶ幹事が多い。

お疲れ様でした。

これですべて終わります。

ご回答いただき、誠にありがとうございました。

付録 2

『新編日語』 上海外语教育出版社 2016年 (何冊目、何課目)

番号	和語	漢語	外来語	注
1	商い	商売 (4,15)	ビジネス (2,1)	
2	危うさ	危険 (2,20)	リスク	
3	過ち	過失	ミス (2,2)	
4	色 (2,2)	色彩 (4,4,85)	カラー	
5	お手入れ (3,1)	介護	ケア	手入れ
6	踊り (1,17)	舞踊	ダンス	
7	泳ぎ (1,7)	水泳	スイミング	泳ぐ
8	幸せ (2,3)	幸福 (1,7)	ハッピー	
9	旅 (1,4)	旅行 (1,18)	トラベル	
10	台所 (3,2)	厨房	キッチン (3,6)	
11	手紙 (1,13)	書簡	レター	
12	手助け	支援 (3,1)	サポート	
13	取り消し (1,14)	解約	キャンセル	取り消す
14	長屋	集合住宅	アパート (2,5)	
15	速さ	速度 (3,4)	スピード	
16	本 (1,9)	書籍	ブック	
17	店 (1,7)	商店 (2,6)	ショップ	
18	めし (4,4)	ご飯 (1,12)	ライス	
19	宿屋	旅館	ホテル (1,18)	

番号	和語	漢語	外来語	注
1	商い	商売	ビジネス(3,5-1R) p.132	
2	危うさ(2,17-2) p.205	危険	リスク	危うい
3	過ち	過失	ミス	
4	色(1,12-1) p.225	色彩	カラー(1,14-2R) p.294	
5	お手入れ	介護(3,9-1) p.246	ケア(3,9-1) p.247	
6	踊り(1,14-2R) p.294	舞踊(3,5-1R) p.133	ダンス(1,9-2R) p.162	
7	泳ぎ(1,9-1R) p.154	水泳(1,14-2R) p.294	スイミング	泳ぐ
8	幸せ(2,21-1R) p.142	幸福(4,15-2) p.141	ハッピー	
9	旅(2,30-1) p.346	旅行(1,9-2R) p.162	トラベル	旅立ち
10	台所	厨房	キッチン	
11	手紙(1,8-1) p.125	書簡	レター(1,6-3) p.89	
12	手助け(3,1-2) p.19	支援(2,26-1) p.253	サポート()	
13	取り消し	解約	キャンセル (2,25-1R) p.234	
14	長屋	集合住宅	アパート(2,28-3) p.316	
15	速さ(1,7-1) p.96	速度	スピード(4,20-1) p.302	速い

16	本 (1,6-1R) p.72	書籍 (4,18-1) p.225	ブック : ブックトーク (4,14-1) p.96 ブックリスト (4,14-1R) p.99	
17	店 (1,8-1R) p.131	商店 (1,12-1) p.225	ショップ	
18	めし(2,20-1R)	ご飯 (1,12) p.130	ライス	召し上がる
19	宿屋	旅館	ホテル	